

Veritas NetBackup™ リリースノート

リリース 8.1.2

マニュアルバージョン 1

VERITAS™

Veritas NetBackup™ リリースノート

最終更新日: 2018-10-18

マニュアルバージョン: NetBackup 8.1.2

法的通知と登録商標

Copyright © 2018 Veritas Technologies LLC. All rights reserved.

Veritas、Veritas ロゴ、NetBackup は Veritas Technologies LLC または同社の米国とその他の国における関連会社の商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

この製品には、サードパーティの所有物であることをベリタスが示す必要のあるサードパーティソフトウェア（「サードパーティプログラム」）が含まれている場合があります。サードパーティプログラムの一部は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスで提供されます。本ソフトウェアに含まれる本使用許諾契約は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務を変更しないものとします。このベリタス製品に付属するサードパーティの法的通知文書は次の場所で入手できます。

<https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements>

本書に記載されている製品は、その使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバースエンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されます。Veritas Technologies LLC からの書面による許可なく本書を複製することはできません。

本書は、現状のままで提供されるものであり、その商品性、特定目的への適合性、または不侵害の暗黙的な保証を含む、明示的あるいは暗黙的な条件、表明、および保証はすべて免責されるものとします。ただし、これらの免責が法的に無効であるとされる場合を除きます。Veritas Technologies LLC は、本書の提供、内容の実施、また本書の利用によって偶発的あるいは必然的に生じる損害については責任を負わないものとします。本書に記載の情報は、予告なく変更される場合があります。

ライセンス対象ソフトウェアおよび資料は、FAR 12.212 の規定によって商業用コンピュータソフトウェアと見なされ、場合に応じて、FAR 52.227-19「Commercial Computer Software - Restricted Rights」、DFARS 227.7202、「Commercial Computer Software and Commercial Computer Software Documentation」、その後継規制の規定により制限された権利の対象となります。業務用またはホスト対象サービスとしてベリタスによって提供されている場合でも同様です。米国政府によるライセンス対象ソフトウェアおよび資料の使用、修正、複製のリリース、実演、表示または開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。

Veritas Technologies LLC
500 E Middlefield Road
Mountain View, CA 94043

<http://www.veritas.com>

テクニカルサポート

テクニカルサポートは世界中にサポートセンターを設けています。すべてのサポートサービスは、お客様のサポート契約およびその時点でのエンタープライズテクニカルサポートポリシーに従って提供されます。サポートサービスとテクニカルサポートへの問い合わせ方法については、次の弊社の **Web** サイトにアクセスしてください。

https://www.veritas.com/support/ja_JP.html

次の URL で Veritas Account の情報を管理できます。

<https://my.veritas.com>

既存のサポート契約に関する質問については、次に示す地域のサポート契約管理チームに電子メールでお問い合わせください。

世界全域 (日本を除く)

CustomerCare@veritas.com

Japan (日本)

CustomerCare_Japan@veritas.com

マニュアル

マニュアルの最新バージョンがあることを確認してください。各マニュアルには、2 ページに最終更新日付が記載されています。最新のマニュアルは、次のベリタス **Web** サイトで入手できます。

<https://sort.veritas.com/documents>

マニュアルに対するご意見

お客様のご意見は弊社の財産です。改善点のご指摘やマニュアルの誤謬脱漏などの報告をお願いします。その際には、マニュアルのタイトル、バージョン、章タイトル、セクションタイトルも合わせてご報告ください。ご意見は次のアドレスに送信してください。

NB.docs@veritas.com

次のベリタスコミュニティサイトでマニュアルの情報を参照したり、質問することもできます。

<http://www.veritas.com/community/ja>

ベリタスの Service and Operations Readiness Tools (SORT) の表示

ベリタスの Service and Operations Readiness Tools (SORT) は、時間がかかる管理タスクを自動化および簡素化するための情報とツールを提供する **Web** サイトです。製品によって異なりますが、SORT はインストールとアップグレードの準備、データセンターにおけるリスクの識別、および運用効率の向上を支援します。SORT がお客様の製品に提供できるサービスとツールについては、次のデータシートを参照してください。

https://sort.veritas.com/data/support/SORT_Data_Sheet.pdf

目次

第 1 章	NetBackup 8.1.2 について	7
	NetBackup 8.1.2 のリリースについて	7
	NetBackup の最新情報について	8
	NetBackup サードパーティの法的通知について	8
	NetBackup のサードパーティコンポーネントについて	8
第 2 章	新機能、拡張機能および変更	10
	NetBackup の新しい拡張と変更について	10
	NetBackup 8.1.2 の新機能、変更点、拡張機能	11
	NetBackup 8.1.2 の新しい Web ユーザーインターフェース	12
	配備のより効率的な管理を支援する Veritas Smart Meter	12
	NetBackup 8.1.2 の RESTful API	13
	NetBackup 8.1.2 のサポートの追加および変更点	15
	LiveUpdate から VxUpdate への置換	17
	NetBackup によるマスターサーバーやメディアサーバー向けの HP-UX および AIX プラットフォームのサポート終了	18
	NetBackup 8.1.2 で使用される最新の Red Hat Linux コンパイラ	18
	Linux デバイスの永続バインドの変更	19
	BMR で導入されている AIX と HP-UX での安全な通信のサポート	19
	オペレーティングシステムとパッチリリースに基づく、サポートされる NetBackup BMR の構成	19
	将来のリリースで廃止される予定のいくつかのシャットダウンコマンド	19
	インストール後すぐにマスターサーバー上のクラウド構成ファイルを更 新するかまたは NetBackup 8.1.2 にアップグレードする	20
	Amazon GLACIER_VAULT ストレージクラスに対して追加されたサ ポート	20
	監査機能の拡張	21
第 3 章	操作上の注意事項	22
	NetBackup 8.1.2 の操作上の注意事項について	22
	NetBackup のインストールとアップグレードの操作上の注意事項	23

HP-UX ItaniumのvPars SRPのコンテナのサポートについて	23
NetBackup の管理と一般的な操作上の注意事項	23
net start コマンドが NetBackup Web 管理コンソールサービスを起動 しない	24
IPv6 アドレスをクライアント名またはイメージ名として使う場合の NetBackup の制限事項	24
NetBackup 管理インターフェースの操作上の注意事項	24
NetBackup 8.1.2 がサポートするアクセス制御方式	25
NetBackup 管理コンソールに、誤った CloudPoint プラグインクレ デンシャルのエラーメッセージが表示されない	25
リモート管理コンソールからポリシーにアクセスすると、「操作がタイム アウトしました」というメッセージが表示される	25
X フォワーディングを使った NetBackup 管理コンソールの起動が特 定の Linux プラットフォーム上で失敗することがある	26
NetBackup 管理コンソールの X フォワーディングで断続的に問題が 発生する	26
NetBackup の 管理コンソールの初期化時に機能が低下する	27
Solaris 10 Update 2 以降がインストールされている Solaris SPARC 64 ビットシステムで簡体中国語 UTF-8 ロケールを使うと、 NetBackup 管理コンソールのコアダンプの問題が発生する場合 がある	27
NetBackup API の操作上の注意事項	27
再開されたバックアップまたはスナップショットジョブが失敗した場合 に、ジョブイニシエータ ID が NetBackup のジョブ API の応答に 表示されなくなる	27
NetBackup Bare Metal Restore の操作上の注意事項	28
Solaris x86 11.2 以降のクライアントのメディアリストアでメンテナンス モードのユーザー名とパスワードを求められる場合がある	28
NetBackup データベースとアプリケーションエージェントの操作上の注意 事項	28
NetBackup の操作上の注意事項	28
NetBackup の国際化と日本語化の操作に関する注意事項	29
データベースおよびアプリケーションエージェントでのローカライズ環 境のサポート	29
特定の NetBackup ユーザー定義の文字列には非 US ASCII 文字 を含めないようにする	30
NetBackup for NDMP の操作上の注意事項	31
ファイルパスの親ディレクトリが NDMP 増分イメージに存在しないこと がある	31
NetBackup SAN クライアントおよびファイバートランスポートの操作上の注 意事項	31
NetBackup クライアントの nbftclnt プロセスを停止できない	31
NetBackup Snapshot Client の操作上の注意事項	32

	状態 109 で CloudPoint プラグインの構成が失敗する	32
	NetBackup 仮想化の操作上の注意事項	32
	NetBackup for VMware の操作上の注意事項	32
付録 A	NetBackup ユーザーの SORT について	36
	Veritas Services and Operations Readiness Tools について	36
	SORT の新規インストールのための推奨手順	37
	SORT のアップグレードのための推奨手順	41
付録 B	NetBackup のインストール要件	44
	NetBackup のインストール要件について	44
	NetBackup に必要なオペレーティングシステムパッチと更新	46
	NetBackup 8.1.2 のバイナリサイズ	49
付録 C	NetBackup の互換性の要件	53
	NetBackup の互換性リストと情報について	53
	NetBackup の End-of-Life のお知らせについて	54
	NetBackup のクラウドコネクタのサポート終了	55
	update_clients スクリプトの廃止予定	55
付録 D	他の NetBackup マニュアルおよび関連マニュアル	56
	NetBackup の関連マニュアルについて	56
	NetBackup リリースノートについて	57
	NetBackup 管理者ガイドについて	57
	NetBackup オプションの管理について	57
	NetBackup データベースエージェントの管理について	60
	NetBackup のインストールマニュアルについて	61
	NetBackup の構成マニュアルについて	62
	NetBackup のトラブルシューティングマニュアルについて	62
	その他の NetBackup のマニュアルについて	62

NetBackup 8.1.2 について

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup 8.1.2 のリリースについて](#)
- [NetBackup の最新情報について](#)
- [NetBackup サードパーティの法的通知について](#)
- [NetBackup のサードパーティコンポーネントについて](#)

NetBackup 8.1.2 のリリースについて

『NetBackup リリースノート』のドキュメントは NetBackup のバージョンのリリースに関する情報のスナップショットとして機能します。古い情報およびリリースに適用しない情報はリリースノートから削除されるか、または NetBackup のマニュアルセットの別の所に移行されます。

p.10 の「[NetBackup の新しい拡張と変更について](#)」を参照してください。

EEB およびリリース内容について

NetBackup 8.1.2 には、以前のバージョンの NetBackup で顧客に影響を与えていた既知の問題の多くに対する修正が組み込まれています。これらの修正のいくつかは Titan または Salesforce.com (SFDC) のケースの形で文書化された顧客固有の問題に関連しています。このリリースに組み込まれた顧客関連の修正のいくつかは、Emergency Engineering Binary (EEB) として利用可能になりました。

NetBackup 8.1.2 で修正された既知の問題を示す EEB および Etrack のリストは、Veritas Operations Readiness Tools (SORT) Web サイトと、『[NetBackup Emergency Engineering Binary ガイド](#)』にあります。

p.36 の「[Veritas Services and Operations Readiness Tools について](#)」を参照してください。

NetBackup アプライアンスのリリースについて

NetBackup アプライアンスは、事前設定バージョンの NetBackup を含むソフトウェアパッケージを実行します。新しいアプライアンスソフトウェアリリースの開発時、NetBackup の最新バージョンがアプライアンスコードの構築基盤として使われます。たとえば、NetBackup Appliance 3.0 は NetBackup 8.0 を基盤としています。この開発モデルにより、NetBackup 内でリリースされたすべての適用可能機能、拡張機能、修正が確実にアプライアンスの最新リリースに含まれます。

NetBackup アプライアンスソフトウェアは、その構築基盤となる NetBackup リリースと同時に、またはそのすぐ後にリリースされます。NetBackup アプライアンスを利用する場合、実行する NetBackup アプライアンスバージョンの『NetBackup リリースノート』を確認する必要があります。

アプライアンス固有のマニュアルは次の場所から入手できます。

<http://www.veritas.com/docs/000002217>

NetBackup の最新情報について

NetBackup の最新情報や発表については、次の場所から利用可能な NetBackup の最新情報 Web サイトを参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/000040237>

他の NetBackup 固有の情報は、次の場所から提供されています。

https://www.veritas.com/support/en_US/15143.html

NetBackup サードパーティの法的通知について

NetBackup には、ベリタスによる所有者の掲示が義務付けられているサードパーティソフトウェアが含まれている場合があります。サードパーティプログラムの一部は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスで提供されます。NetBackup に含まれる本使用許諾契約は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務を変更しないものとします。

これらのサードパーティプログラムの所有権通知とライセンスは、次の Web サイトで入手できる『NetBackup サードパーティの法的通知』文書に記載されています。

<https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements>

NetBackup のサードパーティコンポーネントについて

次の表に、NetBackup 8.1.2 によってインストールされる最も有名なサードパーティコンポーネントの一部を示します。

表 1-1 NetBackup 8.1.2 のサードパーティコンポーネント

サードパーティ	バージョン
Java Runtime Environment (JRE)	

新機能、拡張機能および変更

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup の新しい拡張と変更について](#)
- [NetBackup 8.1.2 の新機能、変更点、拡張機能](#)

NetBackup の新しい拡張と変更について

NetBackup リリースには、新機能および製品修正に加えて顧客対応の新しい拡張と変更が含まれることがよくあります。よくある拡張の例には、新しいプラットフォームのサポート、アップグレードされた内部ソフトウェアコンポーネント、インターフェースの変更、拡張された機能のサポートなどがあります。新しい拡張と変更のほとんどは、『[NetBackup リリースノート](#)』および [NetBackup の互換性リスト](#) に文書化されます。

メモ: 『[NetBackup リリースノート](#)』には、特定の [NetBackup](#) バージョンレベルでそのリリースのタイミングで開始される新しいプラットフォームサポートのみがリストされます。ただし、Veritas によって、以前のバージョンの [NetBackup](#) へのプラットフォームサポートのバックデートが定期的に行われます。最新のプラットフォームサポートのリストについては、[NetBackup 互換性リスト](#) を参照してください。

p.7 の「[NetBackup 8.1.2 のリリースについて](#)」を参照してください。

p.53 の「[NetBackup の互換性リストと情報について](#)」を参照してください。

NetBackup 8.1.2 の新機能、変更点、拡張機能

NetBackup 8.1.2 の新機能、変更点、および機能強化は、以下のカテゴリ別にグループ化されます。トピックに関する詳細情報をお読みになるにはリンクを選択します。

新機能

- [「NetBackup 8.1.2 の新しい Web ユーザーインターフェース」](#)
- [「配備のより効率的な管理を支援する Veritas Smart Meter」](#)
- [「NetBackup 8.1.2 の RESTful API」](#)

安全な通信の機能、変更点、および拡張機能

- **メモ:** NetBackup 8.1.2 をインストールしたり、8.1 より前のリリースから 8.1.2 にアップグレードする前に、『[NetBackup 安全な通信 \(最初にお読みください\)](#)』というマニュアルを必ずお読みになり、内容をご確認ください。NetBackup 8.1 には、NetBackup コンポーネントの安全な通信を向上させる多くの拡張機能が含まれています。『[NetBackup 安全な通信 \(最初にお読みください\)](#)』というドキュメントでは、次の拡張機能の特徴と利点を説明しています。

[NetBackup 安全な通信 \(最初にお読みください\)](#)

- [「BMR で導入されている AIX と HP-UX での安全な通信のサポート」](#)

サポートの変更点と拡張機能

- [「NetBackup 8.1.2 のサポートの追加および変更点」](#)
- [「LiveUpdate から VxUpdate への置換」](#)
- [「NetBackup によるマスターサーバーやメディアサーバー向けの HP-UX および AIX プラットフォームのサポート終了」](#)
- [「NetBackup 8.1.2 で使用される最新の Red Hat Linux コンパイラ」](#)
- [「Linux デバイスの永続バインドの変更」](#)
- [「将来のリリースで廃止される予定のいくつかのシャットダウンコマンド」](#)

クラウド関連の変更点と拡張機能

- [「インストール後すぐにマスターサーバー上のクラウド構成ファイルを更新するかまたは NetBackup 8.1.2 にアップグレードする」](#)
- [「Amazon GLACIER_VAULT ストレージクラスに対して追加されたサポート」](#)

その他の通知事項

- [「監査機能の拡張」](#)

NetBackup 8.1.2 の新しい Web ユーザーインターフェース

NetBackup 8.1.2 では、新しい Web ユーザーインターフェース (UI) を使用して NetBackup を管理できます。今後のリリースでは、さらに別の機能や作業負荷が追加されます。このインターフェースでは現在、次を行えます。

- ジョブの表示
- 保護計画の構成
- セキュリティ設定の管理とホスト管理
- 役割に基づくアクセス制御の管理 (Web UI 用)
- VMware とクラウドの作業負荷の保護およびリカバリ
- アラートの電子メール通知の構成

NetBackup の Web UI を起動するには

- Web ブラウザを開き、<https://masterserver/webui/login> に移動します。

メモ: ユーザーは、ルートユーザーまたは管理者であるか、NetBackup RBAC でそのユーザー向けに設定された役割を持っている必要があります。

配備のより効率的な管理を支援する Veritas Smart Meter

Veritas Smart Meter は、ベリタスのお客様とパートナーが保護対象の容量を監視できる Web ベースのツールです。NetBackup の配備の効率的な管理、傾向の認識、今後の計画の作成に役立ちます。正確なほぼリアルタイムのレポートで、バックアップされるデータの合計量を確認できます。容量の制限を超える前にアラートが警告します。Smart Meter には NetBackup 8.1.2 以降が必要です。

Smart Meter では、次のものが提供されます。

- 保護対象テラバイトの正確でほぼリアルタイムのレポート
- グラフィカルに表示される使用傾向
- ライセンス済み容量が超過する前の使用量評価の警告
- 簡単な容量計画と予算策定
- 適用の急増または潜在的なギャップの識別

キャパシティライセンス (NDMP、限定版、または完全) を使用しているお客様の場合、Smart Meter を使用することで、容量の使用状況を正確に測定して、保護対象の各作業負荷のストレージ使用状況を包括的に把握でき、効率的な容量計画が可能になります。現在、キャパシティライセンス (NDMP、限定版、または完全) を使用しているお客様は、遠隔測定データを手動で定期的にベリタスに提供して、適切なライセンスを確保する

必要があります。Smart Meter は必要な遠隔測定データを自動的に提供するため、手動アップロードの必要がありません。

Veritas Smart Meter について詳しくは、次のマニュアルを参照してください。

TBD

NetBackup 8.1.2 の RESTful API

NetBackup 8.1.2 は、更新された RESTful アプリケーションプログラミングインターフェース (API) と新しい RESTful API の両方を備えています。これらの API は、ご使用の環境で NetBackup を構成および管理できる Web サービスベースのインターフェースを提供します。

NetBackup API は、API の構築に最も一般的に使用されている REST (Representational State Transfer) アーキテクチャで構築されています。この API は、HTTP プロトコルを使用して NetBackup と通信します。そのため、NetBackup API はクラウドベースのアプリケーションや、複数のプラットフォームおよびプログラミング言語で簡単に使用できます。API は、メッセージの要求と応答の形式に JSON (JavaScript Object Notation) を使用します。クライアントとサーバー間の通信には、HTTP の要求と応答の形式を使用します。API クライアント (ご使用のプログラム) は、HTTP プロトコルを使用して NetBackup サーバーに API 要求を行います。NetBackup サーバーは要求を処理します。サーバーは成功または失敗を示す適切な HTTP 状態コードをクライアントに返します。クライアントは、サーバーの応答から必要な情報を抽出します。

メモ: NetBackup アクセス制御 (NBAC) が有効になっている環境では、NetBackup API はサポートされません。

NetBackup 8.1.2 には次の API が搭載されています。

- **NetBackup 認証 API**
API 要求を行うときに使用する JSON Web トークン (JWT) によって認証します。JWT は、ログイン API 要求を実行すると取得できます。また、ログアウト API 要求を実行すると無効にできます。
- **NetBackup 管理 API**
NetBackup の管理操作へのアクセスを提供します。API により、特定のジョブの詳細を取得したり、フィルタ基準 (ジョブの再起動または再開、ジョブの一時停止、キャンセルまたは削除、ジョブのファイルリストの取得、ジョブログの取得) に基づいてジョブのリストを取得できます。
- **NetBackup 資産 API (新規)**
NetBackup の資産情報へのアクセスを提供します。
- **NetBackup カタログ API**

バックアップイメージに関する詳細を取得するため、**NetBackup** カタログへのアクセスを提供します。**API** では、フィルタに基づいてバックアップイメージをリストに表示したり、特定のバックアップイメージ ID の詳細を取得できます。

- **NetBackup 構成 API**
NetBackup ホスト、**NetBackup** ポリシー、**WebSocket** サーバー、**VM** サーバーのクレデンシヤルを構成および管理できます。
- **NetBackup ライセンス API (新規)**
FEDS の使用量の詳細を提供します。フロントエンドテラバイト (**FETB**) の使用量は、1 つのマスターサーバーまたは複数の信頼できるマスターサーバーに対して提供されます。ポリシー形式ごとの使用量や、容量消費の傾向などの詳細が含まれます。
- **NetBackup 管理用 API (新規)**
アラート操作へのアクセスを提供します。アラートの生成、アラートの詳細の取得、アラート通知の送信を行えます。この **API** は、アラート通知を送信しない状態コードを除外する機能も提供します。
- **NetBackup リカバリ API**
前回のバックアップからのリカバリを実行する機能を提供します。
- **NetBackup の役割に基づくアクセス制御管理 API (新規)**
NetBackup の役割に基づくアクセス制御 (**RBAC**) 構成へのアクセスを提供します。
- **NetBackup セキュリティ API**
NetBackup のセキュリティリソースへのアクセスを提供します。この **API** は、認証トークン、ホスト ID に基づく証明書、セキュリティ構成オプション、および監査を管理します。
- **NetBackup ストレージ API (新規)**
NetBackup マスターサーバーのバックアップストレージへのアクセスを提供します。

詳しくは、**SORT** で「**NetBackup API Reference**」を参照してください。この **HTML** マニュアルで、各 **API** とそのオプションの説明を参照してください。

メモ: マニュアルの「はじめに」のセクションを参照してください。

SORT で **NetBackup 8.1.2 API** リファレンスを検索するには

- 1 **SORT** ホームページの[ナレッジベース (**KNOWLEDGE BASE**)]で[文書 (**Documents**)]を選択します。
- 2 [表示する文書 (**Show documents for**)]のカテゴリで、次の値を選択します。
 - 製品 (**Product**): **NetBackup**
 - プラットフォーム (**Platform**): **Windows** および **UNIX (Windows and UNIX)**
 - マニュアルのカテゴリ (**Document categories**): すべて (**All**)

- マニュアルの言語 (Document languages): すべて (All)
- 3 NetBackup 製品バージョンのリストから NetBackup 8.1.2 を見つけて、[製品マニュアル (Product guides)] を選択します。
 - 4 「NetBackup 8.1.2 API Reference」を選択します。

バージョン化された API

NetBackup 8.1.2 では、次の API がバージョン化されました。適切なバージョンを指定すれば、これらの API の以前のバージョンも引き続きサポートされます。

- GET /config/policies/{policyName}
- PUT /config/policies/{policyName}/schedules/{scheduleName}
- GET /config/servers/vmservers
- GET /security/cacert

メモ: 詳しくは、SORT で「NetBackup 8.1.2 API Reference」を参照してください。「はじめに」のセクションで、該当するバージョンのトピックと新機能のトピックを参照してください。

NetBackup 8.1.2 のサポートの追加および変更点

メモ: これらのリストは変更されることがあります。最新の製品およびサービスのサポートの追加および変更については、「[NetBackup マスター互換性リスト](#)」を参照してください。

NetBackup 8.1.2 以降では、次の製品およびサービスがサポートされるようになりました。

- NetBackup マスターサーバー
 - RHEL (Red Hat Enterprise Linux) 7.5 (x86-64)
 - SUSE Linux Enterprise Server 12 SP3 (x86-64)
- NetBackup メディアサーバー
 - CentOS 7.5 (x86-64)
 - Oracle Enterprise Linux 7.5 (x86-64)
 - RHEL (Red Hat Enterprise Linux) 7.5 (x86-64)
 - RHEL (Red Hat Enterprise Linux) (x86-64) バージョン 6.9 および 7.4
 - SUSE Linux Enterprise Server 12 SP3 (x86-64)
- NetBackup クライアント

- CentOS 7.5 (x86-64)
- Oracle Enterprise Linux 7.5 (x86-64)
- IBM Power8 ハードウェアアーキテクチャでの RHEL (Red Hat Enterprise Linux) 7.2 を搭載した NetBackup クライアントのサポート。リトルエンディアンのプラットフォームの場合のみ
- RHEL (Red Hat Enterprise Linux) 7.4 (z/Architecture)
- RHEL (Red Hat Enterprise Linux) 7.5 (x86-64)
- IBM Power8 ハードウェアアーキテクチャでの SLES (SUSE Linux Enterprise Server) 12 SP2 を搭載した NetBackup クライアントのサポート。リトルエンディアンのプラットフォームの場合のみ
- SUSE Linux Enterprise Server 12 SP3 (x86-64 および z/Architecture)
- Ubuntu 17.10 (x86-64)
- Ubuntu 18.04 (x86-64)
- Windows Server、バージョン 1803 (x86-64)
- NetBackup エージェント
 - Windows Server 向け Hyper-V、バージョン 1803 (x86-64)
 - Enterprise Vault 12.3.1
 - Exchange Server 2013 CU20 および CU21
 - Exchange Server 2016 CU9 および CU10
 - Hadoop HDFS 2.8.3
 - MariaDB 5.5.x
 - MySQL 5.7.x および 8.0.x
 - Oracle データベース 12.2.0.1 (12c R2)
 - PostgreSQL 10.4
 - SAP HANA 1.0 SPS 12
 - SAP HANA 2.0 SPS 02 および SPS 03
 - SAP MaxDB 7.9.09
 - SAP Oracle (BR ツールバージョン: 7.53)
 - SAP Sybase ASE 15.7
 - SharePoint 2010、2013、2016 - 2018 年 5 月から 7 月の累積更新
 - SQL Server 2016 SP2

- SQLite 3.24.x
- VMware vSphere 6.5 U2 および vSphere 6.7
- VMware と Hyper-V VM での Linux XFS ファイルシステムからの個々のファイル回復
- 安全な通信を使用した BMR クライアントのサポート
 - HP-UX 11.31
 - IBM AIX 6.9 (TL9)、7.1 (TL3)、7.2
 - RHEL (Red Hat Enterprise Linux) (x86-64) バージョン 7.4 および 7.5
 - Solaris 11.2 (x86-64) および Solaris 11.3 (x86-64)
 - SUSE Linux Enterprise Server (x86-64) バージョン 12 SP2 および 12 SP3
- 安全な通信を使用した BMR サーバーのサポート
 - RHEL (Red Hat Enterprise Linux) (x86-64) バージョン 6.9 および 7.4
 - SUSE Linux Enterprise Server 12 SP3 (x86-64)

このリリースの NetBackup では、次のクラウドベンダーがサポートされるようになりました。

- Huawei クラウドストレージ (S3)
- NEC HYDRAsstor (S3)
- NEC Cloud IaaS (S3)
- Infoniq SWISS3CLOUD (S3)
- Telefonica Open Cloud (S3)

Amazon OneZone ストレージクラスのサポートも追加されています。

以下のクラウドベンダーのサポートは終了しました。

- Telefonica Cloud Storage (S3)

クラウドベンダーのサポートについて詳しくは、『NetBackup クラウド管理者ガイド』を参照してください。

サポート対象の製品およびサービスについて詳しくは、次を参照してください。

p.53 の「[NetBackup の互換性リストと情報について](#)」を参照してください。

LiveUpdate から VxUpdate への置換

NetBackup 8.1.2 では、LiveUpdate が VxUpdate に代わります。VxUpdate の本リリースでは以下が可能です。

- マスターサーバープラットフォームからのクライアントプラットフォームのアップグレード

- クライアントの EEB のインストール
- アップグレード、事前チェック、およびステージング (パッケージのダウンロード) のスケジュール設定
- GUI を使用したクライアント自体からのアドホックアップグレードの実行
- アクティビティモニターでの親ジョブと子ジョブを介したアップグレードの追跡

VxUpdate には、マスターサーバー上のパッケージリポジトリが含まれるほか、パッケージの署名と検証が強化されています。

VxUpdate について詳しくは、『NetBackup アップグレードガイド』を参照してください。

NetBackup によるマスターサーバーやメディアサーバー向けの HP-UX および AIX プラットフォームのサポート終了

バージョン 8.1.2 以降で、NetBackup はマスターサーバーやメディアサーバー用に HP-UX および AIX プラットフォームをサポートしなくなりました。Veritas が開発した NbServerMigrator ツールは、HP-UX または AIX プラットフォーム上で実行するマスターサーバーを、NetBackup アプライアンスまたはサポート対象の NetBackup マスターサーバー (Windows 以外) に移行するのに役立ちます。『NetBackup Master Server Migration Guide』を参照してください。

NbServerMigrator ツールは次のリンクからダウンロードできます。

https://www.veritas.com/support/en_US/article.100043116

メディアサーバーは手動で移行します。HP-UX または AIX プラットフォームから NetBackup アプライアンスまたはサポート対象の NetBackup メディアサーバープラットフォーム (Windows 以外) にメディアサーバーを移行するには、『NetBackup メディアサーバー移行ガイド』を参照してください。

NetBackup 8.1.2 で使用される最新の Red Hat Linux コンパイラ

次のプラットフォームでは、Red Hat Linux 6 アップデート 8 を使用するようになりました。

- Linux Red Hat x86_64
- Linux zSeries Red Hat 64 ビット
- Debian Linux x86_64

メモ: OS カーネルが 2.6.32 より古い場合、NetBackup 8.1.2 これらのシステムにインストールできません。クライアント名は、RedHat2.6.32、IBMzSeriesRedHat2.6.32、および Debian2.6.32 になりました。

Linux デバイスの永続バインドの変更

NetBackup 8.1.2 以降、NetBackup Device Manager (ltid) では、テープドライブに永続的なデバイスパスを使用します。/dev/nstXXX デバイスパスの代わりに、NetBackup は /dev/tape/by-path/YYY-nst デバイスパスを使用します。このパスは、SAN の中斷を通して永続的です。NetBackup Device Manager (ltid) が起動すると、/dev/nstXXX パスは、同等の /dev/tape/by-path/YYY-nst path に変換されます。詳しくは、『Veritas NetBackup デバイス構成ガイド』の Linux オペレーティングシステムに関する章を参照してください。

BMR で導入されている AIX と HP-UX での安全な通信のサポート

NetBackup 8.1.2 以降の BMR (Bare Metal Restore) では、AIX と HP-UX での安全な通信のサポートを導入しています。詳しくは、『NetBackup Bare Metal Restore 管理者ガイド』を参照してください。

NetBackup BMR でサポートされている構成について詳しくは、https://www.veritas.com/support/en_US/article.000127612を参照してください。

オペレーティングシステムとパッチリリースに基づく、サポートされる NetBackup BMR の構成

ベリタスは、BMR についてサポートされるオペレーティングシステムとパッチレベルに関する情報を提供します。サポート対象の NetBackup BMR 構成の詳細については、次を参照してください。

https://www.veritas.com/support/en_US/article.000127612

将来のリリースで廃止される予定のいくつかのシャットダウンコマンド

NetBackup プロセスとデーモンのシャットダウン用の新しい、詳細に文書化されたコマンドが今後のリリースで提供される予定です。その時点で、次のコマンドは利用できなくなります。

- bp.kill_all
- bpdown
- bpclusterkill

この変更に応じた計画を立ててください。新しいコマンドは、今後のリリースノートおよび『NetBackup コマンドリファレンスガイド』で発表されます。

インストール後すぐにマスターサーバー上のクラウド構成ファイルを更新するかまたは NetBackup 8.1.2 にアップグレードする

NetBackup 環境でクラウドストレージを使用する場合には、NetBackup 8.1.2 をインストールするかまたはそのバージョンにアップグレードした直後に、NetBackup マスターサーバー上のクラウド構成ファイルを更新する必要がある場合があります。NetBackup 8.1.2 へのアップグレード後にクラウドプロバイダまたは関連の拡張機能がクラウド構成ファイルから利用できない場合、関連する操作は失敗します。

ベリタスはリリース間にもクラウド構成ファイルへの新しいクラウドサポートを継続的に追加します。NetBackup 8.1.2 の最終ビルドに含まれるクラウドストレージサポートは、クラウド構成パッケージのバージョン 2.4.3 に含まれるものと同じです。

クラウド構成ファイルの更新は、クラウド構成パッケージのバージョン 2.4.4 以降にクラウドストレージプロバイダが追加された場合にのみ必要です。バージョン 2.4.4 以降には次のクラウドサポートが追加されていますが、NetBackup 8.1.2 の最終ビルドには含まれていませんでした。

- Amazon (S3) – 中国 (Ningxia) 地域
- Kingsoft Standard Storage Service (KS3) – Standard (S3)
- Kingsoft Standard Storage Service (KS3) – Standard IA (S3)
- Veritas Cognitive Object Storage (S3)

最新のクラウド構成パッケージについては、次のテクニカルノートを参照してください。

https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.100033434

クラウドストレージ構成ファイルの追加方法については、次のテクニカルノートを参照してください。

https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.100039095

Amazon GLACIER_VAULT ストレージクラスに対して追加されたサポート

バージョン 8.1.2 以降、NetBackup は Amazon GLACIER_VAULT ストレージクラスへのバックアップをサポートします。NetBackup を使用してデータを Amazon (AWS) Glacier のボルトにバックアップすることで、長期保存とコンプライアンスの目的でデータを保護できます。AWS のボルトロックポリシーを使用して、ボルトでコンプライアンス制御を実行したり、ボルトを WORM (Write Once Read Many) デバイスにすることができます。

詳しくは、

https://www.veritas.com/content/support/en_US/doc/58500769-132715871-0/v130138814-132715871
『NetBackup クラウド管理者ガイド』にある、Amazon Glacier Vault でのデータ保護方法を参照してください。

監査機能の拡張

このリリースの NetBackup では、監査に関するいくつかの操作が強化されています。NetBackup マスターサーバーで適切な `-ctgy` オプション値を指定して `nbauditreport` コマンドを使用すると、監査レコードを表示できます。NetBackup OpsCenter で監査レコードを表示することもできます。

`nbauditreport` コマンドについて詳しくは、『[NetBackup コマンドリファレンスガイド](#)』を参照してください。

- リストア操作とイメージの内容の参照操作
リストア操作とイメージの内容の参照操作は、適切なユーザー ID を使用して監査され、ログに記録されます。これらの操作は、NetBackup のグラフィカルユーザーインターフェース、API、またはコマンド (`bplist`、`bprestore`、`nbrestorevm` のいずれか) から開始できます。これらの監査レコードを表示するには、NetBackup マスターサーバーで `nbauditreport -ctgy DATAACCESS` コマンドを入力します。
- ストレージライフサイクルポリシー (SLP) の操作
ストレージライフサイクルポリシー (SLP) の作成、変更、削除の正常な試行は、NetBackup のグラフィカルユーザーインターフェース、API、または `nbstl` コマンドから開始されるときに監査され、ログに記録されます。さらに、NetBackup 管理コンソールからの SLP のアクティブ化または一時停止の試行も監査され、ログに記録されます。SLP 監査レコードを表示するには、NetBackup マスターサーバーで `nbauditreport -ctgy SLP` コマンドを使用します。

メモ: `nbstlutil` コマンドを使用して SLP をアクティブ化または一時停止しても、監査は行われません。これらの操作が監査されるのは、NetBackup のグラフィカルユーザーインターフェースまたは API から開始された場合のみです。

- 資産および資産グループの操作
資産データベース API で vCenter Server や仮想マシンなどの資産を POST/asset-cleanup プロセスの一部として削除する操作は、監査され、ログに記録されます。これらの監査レコードを表示するには、NetBackup マスターサーバーで `nbauditreport -ctgy ASSET` コマンドを使用します。
また、資産グループの作成、変更、削除や、ユーザーに許可されていない資産グループに対するその他の処理も監査され、ログに記録されます。資産グループの監査レコードを表示するには、NetBackup マスターサーバーで `nbauditreport -ctgy ASSETGROUP` コマンドを使用します。

操作上の注意事項

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup 8.1.2 の操作上の注意事項について](#)
- [NetBackup のインストールとアップグレードの操作上の注意事項](#)
- [NetBackup の管理と一般的な操作上の注意事項](#)
- [NetBackup 管理インターフェースの操作上の注意事項](#)
- [NetBackup API の操作上の注意事項](#)
- [NetBackup Bare Metal Restore の操作上の注意事項](#)
- [NetBackup データベースとアプリケーションエージェントの操作上の注意事項](#)
- [NetBackup の国際化と日本語化の操作に関する注意事項](#)
- [NetBackup for NDMP の操作上の注意事項](#)
- [NetBackup SAN クライアントおよびファイバートランスポートの操作上の注意事項](#)
- [NetBackup Snapshot Client の操作上の注意事項](#)
- [NetBackup 仮想化の操作上の注意事項](#)

NetBackup 8.1.2 の操作上の注意事項について

NetBackup の操作上の注意事項は、NetBackup のマニュアルセットまたはベリタスのサポート Web サイトのどこにも文書化されない可能性のある NetBackup のさまざまな操作に関する重要な点について説明したものです。操作上の注意事項は、NetBackup の各バージョンに対応する形で『NetBackup リリースノート』に記載されます。通常、操作上の注意事項には、既知の問題、互換性の問題、およびインストールとアップグレードに関する追加情報が含まれます。

操作上の注意事項は、NetBackup のバージョンがリリースされた後に追加または更新されることがよくあります。この結果、オンラインバージョンの『NetBackup リリースノート』またはその他の NetBackup マニュアルは、リリース後の更新となる場合があります。

NetBackup の指定のリリースに関する最新版のマニュアルセットには、ベリタスのサポート Web サイトの次の場所でアクセスできます。

NetBackup のリリースノート、管理者ガイド、インストールガイド、トラブルシューティングガイド、スタートガイド、ソリューションガイド

p.56 の「NetBackup の関連マニュアルについて」を参照してください。

NetBackup のインストールとアップグレードの操作上の注意事項

NetBackup は、さまざまな方法を使って異機種混合環境でインストールしたり、アップグレードしたりすることができます。NetBackup は、同一環境で混在しているさまざまなリリースレベルの NetBackup サーバーとクライアントとも互換性があります。このトピックでは、NetBackup 8.1.2 のインストール、アップグレード、ソフトウェアパッケージに関連する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

HP-UX ItaniumのvPars SRPのコンテナのサポートについて

Hewlett Packard Enterprise (HPE) は、HP-UX Virtual Partitions (vPars) 対応サーバーに Secure Resource Partitions (SRP) という新しいタイプのコンテナを導入しました。SRP で導入されたセキュリティ変更の一部として、swinstall と swremove などのネイティブ HP-UX インストールツールの SRP 環境内での実行は無効です。swinstall と swremove ツールは vPars を実行しているグローバルホストからのみ呼び出すことが可能で、SRP コンテナにネイティブパッケージをプッシュインストールします。

HPE Itanium SRP コンテナ (プライベートファイルシステム、共有ファイルシステムまたは作業負荷) へのインストールを試行すると、NetBackup のインストールが中止されます。グローバルコンテナにインストールすると、グローバルビューにのみインストールするためにパラメータがすべての swremove と swinstall コマンドに追加されます。

NetBackup の管理と一般的な操作上の注意事項

NetBackup は、さまざまなプラットフォームに対して、完全かつ柔軟なデータ保護ソリューションを提供します。対象となるプラットフォームには、Windows、UNIX、Linux システムなどが含まれます。データ保護機能の標準セットに加えて、NetBackup は他の複数のライセンス付与されたコンポーネントとライセンス付与されていないコンポーネントを活用して、さまざまな異なるシステムや環境をより強力に保護できます。このトピックでは、NetBackup 8.1.2 の管理に関連する一般的な操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

net start コマンドが NetBackup Web 管理コンソールサービスを起動しない

NetBackup Web 管理コンソールサービスを開始するために net start コマンドを使用すると、次のエラーで失敗します。

```
C:\>net start "NetBackup Web Management Console"
```

```
The NetBackup Web Management Console service is starting.....  
The NetBackup Web Management Console service could not be started.
```

```
The service did not report an error.
```

```
More help is available by typing NET HELPMSG 3534.
```

このエラーは、NetBackup Web 管理コンソールサービスの起動に時間がかかりすぎてタイムアウトになったことによる結果です。タイムアウト自体が原因でエラーが報告されたわけではありません。NET HELPMSG 3534 も有用な情報を提供しません。

回避策として、次のコマンドを使用します。

```
C:\>sc start "NetBackup Web Management Console"
```

IPv6 アドレスをクライアント名またはイメージ名として使う場合の NetBackup の制限事項

NetBackup の次の制限事項は、IPv6 アドレスがクライアント名またはイメージ名として使われている場合に当てはまる場合があります。

- ポリシーでクライアント名として IPv6 アドレスを使っても、Windows システム上のインスタンリカバリ (IR) スナップショットでは機能しません。この場合は、バックアップに失敗する可能性があります。IPv6 アドレスの代わりにホスト名を指定してください。イメージ名は NetBackup で自動的に作成され、クライアント名とタイムスタンプの組み合わせで構成されます。クライアント名がポリシー内で IPv6 アドレスとして構成されていると、IPv6 アドレスが含まれているイメージ名が (イメージカタログに) 生成されます。この場合は、バックアップに失敗します。
- カタログでイメージ名として IPv6 アドレスを使っても、Windows システム上のインスタンリカバリ (IR) スナップショットでは機能しません。

NetBackup 管理インターフェースの操作上の注意事項

NetBackup 管理者には、NetBackup の管理に使用できる複数のインターフェースの選択肢があります。すべてのインターフェースには同様の機能があります。このトピックで

は、NetBackup 8.1.2 のこれらのインターフェースに関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

個々の NetBackup 管理インターフェースの詳細については、『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。インターフェースをインストールする方法については、『NetBackup インストールガイド』を参照してください。管理コンソールとプラットフォームの互換性については、Veritas のサポート Web サイトにある各種の NetBackup 互換性リストを参照してください。

p.53 の「[NetBackup の互換性リストと情報について](#)」を参照してください。

- NetBackup Web ユーザーインターフェース (UI)
- NetBackup 管理コンソール
- リモート管理コンソール
- デバイス管理用の文字ベースのメニューインターフェイス
- コマンドライン

NetBackup 8.1.2 がサポートするアクセス制御方式

NetBackup の役割に基づくアクセス制御 (RBAC) は、Web UI と API でのみ利用可能です。NetBackup のその他のアクセス制御方法は、拡張監査 (EA) を除いて、Web UI と API ではサポートされません。EA を使用して構成されているユーザーは、Web UI と API に対する完全なアクセス権を持ちます。NetBackup アクセス制御 (NBAC) が有効な場合は、Web UI を使用できません。

詳しくは、『NetBackup Web UI セキュリティ管理者ガイド』を参照してください。

NetBackup 管理コンソールに、誤った CloudPoint プラグインクレデンシャルのエラーメッセージが表示されない

オンプレミス配備の場合、誤ったクレデンシャルを使用して CloudPoint プラグインを構成した場合、NetBackup 管理コンソールにエラーメッセージは表示されません。また、CloudPoint プラグインは CloudPoint プラグインのリストに表示されません。

リモート管理コンソールからポリシーにアクセスすると、「操作がタイムアウトしました」というメッセージが表示される

NetBackup のリモート管理コンソールからポリシーにアクセスすると、次の警告メッセージが表示されます。

```
The operation timed out. The operation has exceeded the time out limit, though service or daemon may still be processing the request.
```

この警告は、NBJAVA_CORBA_DEFAULT_TIMEOUT のデフォルト値が必要な値を下回っているために表示されます。ただし、[OK]をクリックしてもポリシーにはまだアクセスできません。

回避策: NBJAVA_CORBA_DEFAULT_TIMEOUT 値を変更します。

- 変更前:

```
SET NBJAVA_CORBA_DEFAULT_TIMEOUT=60
```

- 変更後:

```
SET NBJAVA_CORBA_DEFAULT_TIMEOUT=300
```

変更が完了したら、NetBackup のリモート管理コンソールを再起動します。ポリシーが最大 5 分 (300 秒) 以内にロードされます。

NetBackup のリモート管理コンソールの構成オプションの設定について詳しくは、NetBackup 8.1.2 の『[NetBackup 管理者ガイド Vol. 1](#)』を参照してください。

X フォワーディングを使った NetBackup 管理コンソールの起動が特定の Linux プラットフォーム上で失敗することがある

X フォワーディングを使った NetBackup 管理コンソールの起動は、特定の Linux プラットフォーム、特に VMware 上の Red Hat Enterprise Linux 6.0 (RHEL 6.0) で失敗する場合があります。この問題は、デフォルトの GNU C ライブラリ (glibc) と比較的新しいハードウェアでの Advanced Vector Extensions (AVX) との非互換性に起因しています。この問題は、glibc の今後のリリースで対処されます。

回避策: runInstaller を実行する前に `export LD_BIND_NOW=1` コマンドを実行します。

NetBackup 管理コンソールの X フォワーディングで断続的に問題が発生する

NetBackup 管理コンソールの X フォワーディングにおいて、断続的に問題が発生する場合があります。この動作は、X フォワーディングを使用するときのみ発生します。この問題は、ローカルコンソールでは発生しません。問題の多くは Linux サーバーにおいて発生しますが、それに限定されるものではありません。この問題は、一般的には Xming や XBrowser などの古いバージョンの X ビューアが使用されたときに発生します。

MobaXterm を使用すると、問題の発生を最小限に抑える、または問題を解消できるとも考えられます。X フォワーディングで問題が発生した場合には、X ビューアをアップグレードして同じ操作を試みるか、またはローカルコンソールからサーバーにアクセスしてください。

NetBackup の 管理コンソールの初期化時に機能が低下する

次の問題は、ログオン ダイアログで指定されているホスト上の 1 つ以上の NetBackup サービスまたはデーモンが実行されていない場合に発生します。

- 機能が低下 (たとえば、バックアップ、アーカイブ、リストアのコンポーネントのみが利用可能)
- NetBackup 管理コンソールの初期化中に[接続できません (Cannot Connect)]エラーが発生する

Solaris 10 Update 2 以降がインストールされている Solaris SPARC 64 ビットシステムで簡体中国語 UTF-8 ロケールを使うと、NetBackup 管理コンソールのコアダンプの問題が発生する場合があります

Solaris 10 Update 2 以降がインストールされている Solaris SPARC 64 ビットシステムで簡体中国語 UTF-8 ロケールを使うと、NetBackup 管理コンソールのコアダンプの問題が発生する場合があります。詳しくは、Oracle 技術ネットワーク Web サイトで次の URL からバグ ID 6901233 を参照してください。

http://bugs.sun.com/bugdatabase/view_bug.do?bug_id=6901233

この問題が発生した場合は、Oracle が提供する Solaris のパッチまたはアップグレードを適用し、この問題を修復してください。

NetBackup API の操作上の注意事項

NetBackup には、RESTful アプリケーションプログラミングインターフェース (API) が含まれています。これらの API は、ご使用の環境で NetBackup を構成および管理できる Web サービスベースのインターフェースを提供します。このトピックでは、NetBackup 8.1.2 の NetBackup API に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

詳しくは、SORT で「NetBackup API Reference」を参照してください。この HTML マニュアルで、各 API とそのオプションの説明を参照してください。

再開されたバックアップまたはスナップショットジョブが失敗した場合に、ジョブイニシエータ ID が NetBackup のジョブ API の応答に表示されなくなる

バックアップジョブまたはスナップショットジョブが再開されて失敗した場合に、NetBackup ジョブ API はジョブのイニシエーター ID を戻しません。

イニシエーター ID 別にジョブのリストを表示しようとする、再開後に失敗したジョブは表示されません。

NetBackup Bare Metal Restore の操作上の注意事項

NetBackup Bare Metal Restore (BMR) では、サーバーのリカバリ処理が自動化され簡素化されるため、オペレーティングシステムの再インストールまたはハードウェアの構成を手動で実行する必要がなくなります。このトピックでは、NetBackup 8.1.2 の BMR に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

Solaris x86 11.2 以降のクライアントのメディアリストアでメンテナンスモードのユーザー名とパスワードを求められる場合がある

Solaris x86 11.2 以降のバージョンがインストールされているクライアントのメディアリストア中、リストアシステムが次のメッセージを表示することがあります。

```
Enter user name for system maintenance (control-d to bypass):
```

同時に、BMR がネットワークアダプタ名の入力を求めます。

```
Enter the network adapter (LINK) name from the above list  
corresponding to MAC Address:
```

ネットワークアダプタ名を入力するとその名前はシステムメンテナンスのためのユーザー名として受信され、システムはさらにパスワードの入力を求めます。たとえば、net0 というネットワークアダプタ名を入力すると、次のメッセージが表示されます。

```
Enter net0 password (control-d to bypass):
```

この問題は、リストアに重要でない Solaris サービスのいずれかがメンテナンスモードになることで発生します。

回避策: この問題を解決するには、Ctrl+d を押して BMR のリストアを続行します。

NetBackup データベースとアプリケーションエージェントの操作上の注意事項

NetBackup には、Oracle、Microsoft SQL Server、Microsoft Exchange Server といったさまざまなデータベースやアプリケーション技術を保護するためのいくつかの方法が用意されています。このトピックでは、NetBackup 8.1.2 のデータベース技術の保護に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

NetBackup の操作上の注意事項

NetBackup for SharePoint Server は、NetBackup の機能を拡張して、SharePoint データベースのオンラインバックアップとリストアを実行可能にしています。この項では、

NetBackup 8.1.2 の NetBackup for SharePoint に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

SharePoint データベースオブジェクトのパスが Windows のパスの最大長を超えている場合に SharePoint の GRT バックアップが失敗する

SharePoint データベースオブジェクトのパスが Windows パスの最大長を超えている場合は、SharePoint の GRT (Granular Recovery Technology) バックアップが失敗します。

GRT バックアップ時に、SharePoint データベースオブジェクトが一時的にフォルダ階層内のファイルとして保存されます。このフォルダの名前は、NetBackup 一時ディレクトリのパスに含まれる SQL Server ホスト名、バックアップイメージ ID、およびコンテンツデータベース名から成ります。この組み合わせのパスが Windows パスの最大長を超えないようにしてください。詳しくは、次の Microsoft 社の記事を参照してください。

[https://msdn.microsoft.com/en-us/library/windows/desktop/aa365247\(v=vs.85\).aspx](https://msdn.microsoft.com/en-us/library/windows/desktop/aa365247(v=vs.85).aspx)

Windows パスの長さ制限を超えると、SharePoint の GRT バックアップ結果の取得でエラーが発生する可能性があります。

回避策: コンテンツデータベース名と前述の他の項目を合わせて Windows パスの最大長を超えていないことを確認します。

NetBackup の国際化と日本語化の操作に関する注意事項

このトピックでは、NetBackup 8.1.2 の国際化、日本語化、および英語以外のロケールに関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

データベースおよびアプリケーションエージェントでのローカライズ環境のサポート

NetBackup データベースおよびアプリケーションエージェントの次のフィールドでは、ASCII 以外の文字がサポートされています。

- Oracle:
データファイルパス、表領域名、TNS パス
- DB2:
データファイルパス、表領域名
- SAP:
英語の SAP がローカライズされた OS 上で動作します (特定の SAP フィールドがローカライズされることはありません)。

- **Exchange:**
 メールボックス、添付ファイルの名前と内容、パブリックフォルダ、連絡先、カレンダー、フォルダ、データベースパス
- **SharePoint:**
 サイトコレクション名、ライブラリ、サイトコレクション内のリスト
- **Lotus Notes:**
 電子メールデータ (.nsf ファイル)
- **Enterprise Vault (EV) エージェント:**
 ボルトストア、パーティション、データ
- **VMware:**
 ユーザー名、パスワード、VM 表示名、データセンター、フォルダ、データストア、リソースプール、VApp、ネットワーク名、VM ディスクパス

特定の NetBackup ユーザー定義の文字列には非 US ASCII 文字を含めないようにする

特定の NetBackup ユーザー定義の文字列には、非 US ASCII 文字を含めないようにする必要があります。

NetBackup の次のユーザー定義の文字列には、非 US ASCII 文字を含めないようにする必要があります。

- ホスト名 (マスターサーバー、メディアサーバー、Enterprise Media Manager (EMM) サーバー、ボリュームデータベースホスト、メディアホスト、クライアント)
- ポリシー名
- ポリシーの KEYWORD (Windows のみ)
- バックアップ、アーカイブ、およびリストアの KEYWORD (Windows のみ)
- ストレージユニット名
- ストレージユニットディスクのパス名 (Windows のみ)
- ロボット名
- デバイス名
- スケジュール名 (Schedule Name)
- メディア ID
- ボリュームグループ名 (Volume group name)
- ボリュームプール名
- メディアの説明 (Media description)

- Vault ポリシー名
- Vault レポート名
- BMR 共有リソースツリー (SRT) 名
- トークン名

NetBackup for NDMP の操作上の注意事項

NetBackup for NDMP は、NetBackup のオプション製品です。Network Data Management Protocol (NDMP) を使用して、NetBackup で Network Attached Storage (NAS) システムのバックアップおよびリストアを開始および制御できます。このトピックでは、NetBackup 8.1.2 の NetBackup for NDMP に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

ファイルパスの親ディレクトリが NDMP 増分イメージに存在しないことがある

NetBackup のネットワークデータ管理プロトコル (NDMP) バックアップポリシーをバックアップ選択項目の `set type=tar` 指示句で設定している場合に、問題が起きることがあります。増分 NDMP バックアップが保存するファイルのパスの親ディレクトリはバックアップイメージに存在しない場合があります。この問題について詳しくは、ベリタス社のサポート Web サイトで次の TechNote を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/000095049>

NetBackup SAN クライアントおよびファイバートランスポートの操作上の注意事項

SAN クライアントは NetBackup クライアントの高速なバックアップとリストアを提供する NetBackup のオプション機能です。

NetBackup クライアントの nbftclnt プロセスを停止できない

nbftclnt プロセスが、`bp.kill_all` コマンドおよび `kill -9 nbftclnt` コマンドを使用しても停止できません。

回避方法:

`echo "1"` コマンドを、対応するファイバーチャネルポートの `issue_lip` インターフェースで使用して、ポートをリセットします。

詳しくは、次の記事を参照してください。

[RHEL-storage_administration_guide/scanning-storage-interconnects](https://www.veritas.com/other/redhat/rhel-storage_administration_guide/scanning-storage-interconnects)

NetBackup Snapshot Client の操作上の注意事項

NetBackup Snapshot Client は NetBackup に各種のスナップショットベースの機能を提供します。ファイバーチャネルネットワーク (SAN) または従来の LAN に接続されている UNIX、Linux および Windows プラットフォームのクライアントがサポートされています。それぞれのスナップショット方式は、データが格納されるストレージサブシステムに組み込まれているスナップショットテクノロジーに依存します。この項では、NetBackup 8.1.2 の Snapshot Client に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

状態 109 で CloudPoint プラグインの構成が失敗する

CloudPoint プラグインの構成が状態 109 で失敗します。このエラーは無視しても問題ありません。構成する CloudPoint プラグインは、NetBackup または CloudPoint ですでに構成されています。

NetBackup 仮想化の操作上の注意事項

NetBackup には、仮想環境を保護するためのいくつかの方法が用意されています。NetBackup は、主に VMware と Hyper-V という 2 つの仮想化技術を保護できますが、その他の仮想化技術も保護できます。このトピックでは、NetBackup 8.1.2 による仮想化技術の保護に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

NetBackup for VMware の操作上の注意事項

NetBackup for VMware は、VMware ESX Server 上で動作する VMware 仮想マシンのバックアップおよびリストアを実現します。また、VMware vCenter 用 NetBackup プラグイン (vCenter プラグイン) を使うと、vSphere Client で仮想マシンのバックアップを監視し、バックアップから仮想マシンをリカバリすることができます。このトピックには、NetBackup for VMware および NetBackup 8.1.2 の vCenter プラグインに関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

NetBackup Web UI がレプリケートされたバックアップイメージから VM をリストアできない

仮想マシンのバックアップイメージが別のドメインにレプリケートされた場合、NetBackup Web UI ではそのイメージからの仮想マシンのリストアをサポートしていません。

回避策として、NetBackup 管理コンソールを使用して、レプリケートされたバックアップイメージから仮想マシンをリストアします。

NetBackup Web UI で VMware サーバーのエントリが検証されない

[VMware サーバー (VMware servers)]で[追加 (Add)]をクリックして、無効な名前を入力するか、vCenter Server または ESXi サーバーの無効なユーザー名やパスワードを入力すると、無効なサーバーが追加されます。NetBackup では、このサーバーに接続できるかどうかは検証されません。

この問題を回避するには、無効なサーバーを選択して[削除 (Delete)]をクリックします。

NetBackup が nbd または nbdssl トランスポートモードを使用して VMware IPv6 ESXi サーバーに直接接続できない

NetBackup は、ピュア IPv6 ESXi サーバーに対し、nbd または nbdssl の直接接続を確立できません。この制限は、NetBackup で構成されている ESXi のクレデンシャルに対してのみ発生します。

この問題は VMware の既知の問題です。詳しくは、Virtual Disk Development Kit 6.5 のリリースノートに記載されている、既知の問題と回避方法に関するセクションを参照してください。次のサイトから入手できます。

[VDDK for vSphere 6.5](#)

メモ: この問題は、ホットアドおよび SAN トランスポートモードには影響しません。また、この問題は、IPv6 vCenter (および vCenter のクレデンシャル) を使用して確立された NetBackup 接続にも影響しません。

前回の完全バックアップが期限切れになると VMware のブロックレベルの増分バックアップも期限切れになる

仮想マシンの NetBackup VMware ブロックレベルの増分バックアップは、同じポリシーを使用して作成した同じ VM の以前の完全バックアップによって決まります。VMware の完全バックアップが期限切れになると、完全バックアップに基づくその後の VM ブロックレベルの増分バックアップも期限が切れて削除されます。この期限切れは、増分スケジュールの保持期間に関係なく発生します。この問題は、すべてのバージョンの NetBackup for VMware に該当します。

メモ: この問題は、NetBackup アクセラレータのバックアップには該当しません。

NetBackup にリストア ESX サーバーのクレデンシャルがあるときに、VM の vCenter へのリストアが失敗する

NetBackup の [VMware リストア ESX サーバー (VMware Restore ESX Server)] オプション ([メディアおよびデバイスの管理 (Media and Device Management)]、[クレデン

シヤル (Credentials)]、[仮想マシンサーバー (Virtual Machine Servers)]の下)を使用すると、特定の ESXi サーバーが VM リストアのデータを移動できます。リストア先が (ESXi サーバーではなく) vCenter である場合、状態 2820「NetBackup VMware ポリシーリストアエラー」でリストアが失敗します。VM はリストアされますが、NetBackup は VM のスナップショットに戻れず、そのスナップショットを削除できません。

この問題を修正するため、NetBackup 8.1 緊急エンジニアリングバイナリ (EEB) を使用できます。

回避策としては、vSphere インターフェースを使用して、リストアされる VM のスナップショットに戻りスナップショットを削除できます。

VM のスナップショットに戻ってこれを削除するには

- 1 vSphere Web Client 6.0 でリストアする VM を右クリックして、[スナップショット (Snapshots)]、[最新のスナップショットに戻る (Revert to Latest Snapshot)]の順に選択します。
- 2 もう一度 VM を右クリックして、[スナップショット (Snapshots)]、[スナップショットの管理 (Manage Snapshots)]の順に選択します。[VM スナップショットの管理 (Manage VM Snapshots)]ダイアログを使用してスナップショットを削除します。

お使いのバージョンの vSphere とスナップショットを削除する方法については、VMware のマニュアルを参照してください。

特定の Replication Director オプションを指定した VMware ポリシーについて仮想マシンのアラート通知が正しくない場合がある

次の例を考えてみます。

次のオプションを指定した P1 という VMware ポリシーがあります。

- [Replication Director]オプションは有効です。
- [アプリケーションの整合性スナップショット (Application Consistent Snapshot)]オプションは無効です。

P1 は、次に示す仮想マシンのバックアップを作成します。

- DS1 NFS データストアにある VM1
- DS2 NFS データストアにある VM2

P1 を実行すると、次に示すジョブ階層が表示されます。

- Job1: 仮想マシンの検出のための検出 (親) バックアップジョブ
 - Job2: VM1 と VM2 の構成データを収集する子ジョブ
 - Job3: VM1 と関連付けられた DS1 のスナップショットを作成するための子ジョブ
 - Job4: VM2 と関連付けられた DS2 のスナップショットを作成するための子ジョブ

データストアのスナップショットジョブが失敗すると、構成データを収集するジョブに表示される最初の仮想マシンにアラート通知が常に送信されます。

例に示す **Job4** が失敗すると、**VM2** ではなく **VM1** にアラート通知が送信されます。

障害が発生した VM スナップショットジョブについての正しい情報を取得するには、**NetBackup** 管理コンソールのアクティビティモニターに移動します。

NetBackup ユーザーの SORT について

この付録では以下の項目について説明しています。

- [Veritas Services and Operations Readiness Tools について](#)
- [SORT の新規インストールのための推奨手順](#)
- [SORT のアップグレードのための推奨手順](#)

Veritas Services and Operations Readiness Tools について

Veritas Services and Operations Readiness Tools (SORT) は、ベリタスエンタープライズ製品をサポートするスタンドアロンと Web ベースの強力なツールセットです。

NetBackup では、SORT によって、複数の UNIX/Linux または Windows 環境にまたがってホストの設定を収集、分析、報告する機能が提供されます。このデータは、システムで NetBackup の最初のインストールまたはアップグレードを行う準備ができていかどうかを評価するのに役立ちます。

次の Web ページから SORT にアクセスします。

<https://sort.veritas.com/netbackup>

SORT ページに移動すると、次のようにより多くの情報を利用可能です。

- インストールとアップグレードのチェックリスト
このツールを使うと、システムで NetBackup のインストールまたはアップグレードを行う準備ができていかどうかを確認するためのチェックリストを作成できます。このレポートには、指定した情報に固有のソフトウェアとハードウェアの互換性の情報がすべて含まれています。さらに、製品のインストールまたはアップグレードに関する手順とその他の参照先へのリンクも含まれています。

- **Hotfix と EEB Release Auditor**
このツールを使うと、インストールする予定のリリースに必要な Hotfix が含まれているかどうかを調べることができます。
- **カスタムレポート**
このツールを使うと、システムとベリタスエンタープライズ製品に関する推奨事項を取得できます。
- **NetBackup のプラットフォームと機能の今後の予定**
このツールを使用すると、今後新しい機能や改善された機能と置き換える項目に関する情報を入手できます。さらに、今後置き換えられることなく廃止される項目に関する情報を入手することもできます。これらの項目のいくつかには NetBackup の特定の機能、他社製品の統合、ベリタス製品の統合、アプリケーション、データベースおよび OS のプラットフォームが含まれます。

SORT ツールのヘルプが利用可能です。SORT ホームページの右上隅にある[ヘルプ (Help)]をクリックします。次のオプションがあります。

- 実際の本のようにページをめくってヘルプの内容を閲覧する
- 索引でトピックを探す
- 検索オプションを使ってヘルプを検索する

SORT の新規インストールのための推奨手順

ベリタスは新規の NetBackup ユーザーに対して、SORT の最初の導入時にリストされる 3 つの手順を実行することをお勧めします。このツールには他にも多くの機能が備わっていますが、これらの手順は SORT の概要を知る上で役立ちます。さらに、これらの手順を実行することで、その他の SORT 機能に関する有用で基本的な知識が備わります。

表 A-1

手順	詳細
SORT Web ページに Veritas Account を作成します。	p.38 の「 SORT ページに Veritas Account を作成する方法 」を参照してください。
汎用インストールレポートを作成します。	p.38 の「 汎用インストールチェックリストを作成する方法 」を参照してください。
システム固有のインストールレポートを作成します。	p.39 の「 システム固有のインストールレポートを作成する方法 (Windows の場合) 」を参照してください。 p.40 の「 システム固有のインストールレポートを作成する方法 (UNIX または Linux の場合) 」を参照してください。

SORT ページに Veritas Account を作成する方法

- 1 Web ブラウザで、次の場所へ移動します:
<https://sort.veritas.com/netbackup>
- 2 右上で[ログイン (Login)]をクリックしてから、[今すぐ登録 (Register now)]をクリックします。
- 3 要求された次のログインおよび連絡先情報を入力します:

電子メールアドレス (Email address) 電子メールアドレスを入力し、検証してください

パスワード (Password) パスワードを入力し、検証してください

名 (First name) 名を入力してください

姓 (Last name) 姓を入力してください

会社名 (Company name) 会社名を入力してください

国 (Country) 国を入力してください

優先言語 (Preferred language) 優先言語を選択してください

CAPTCHA テキスト (CAPTCHA text) 表示される CAPTCHA テキストを入力してください。必要に応じて、イメージを更新してください。

- 4 [送信 (Submit)]をクリックします。
- 5 ログイン情報の受信時に SORT にログインしてカスタマイズした情報のアップロードを開始できます。

汎用インストールチェックリストを作成する方法

- 1 Web ブラウザで、次の場所へ移動します:
<https://sort.veritas.com/netbackup>
- 2 [インストールとアップグレードのチェックリスト (Installation and Upgrade Checklist)] ウィジェットを見つけて選択します。

3 要求された情報を指定します

製品 (Product)	ドロップダウンメニューから適切な製品を選択してください。 NetBackup の場合は NetBackup Enterprise Server または NetBackup Server を選択してください。
インストールするまたはアップグレード後の製品バージョン (Product version you are installing or upgraded to)	NetBackup の適切なバージョンを選択してください。最新バージョンは常にリストの一番上に示されます。
プラットフォーム (Platform)	生成するチェックリストに対応するオペレーティングシステムを選択してください。
プロセッサ (Processor)	チェックリストに対して適切なプロセッサの種類を選択してください。
アップグレード前の製品バージョン (任意) (Product version you are upgrading from (optional))	新規インストールの場合は、何も選択しないでください。アップグレードの場合は、現在インストールされている NetBackup のバージョンを選択できます。

4 [チェックリストの生成 (Generate Checklist)]をクリックします。

5 選択内容に対応するチェックリストが作成されます。この画面で選択内容を変更できます。[チェックリストの生成 (Generate Checklist)]をクリックすると、新しいチェックリストが作成されます。

結果の情報は PDF として保存できます。NetBackup では多数のオプションを利用可能で、それらの多くは生成されたチェックリストに示されます。各セクションを十分に確認して、環境に適用するかどうかを判断してください。

システム固有のインストールレポートを作成する方法 (Windows の場合)

1 SORT の Web サイトに移動します。

<https://sort.veritas.com/netbackup>

2 [インストールとアップグレード (Installation and Upgrade)]セクションで、[SORT データコレクタによるインストールとアップグレードのカスタムレポート (Installation and Upgrade custom reports by SORT data collectors)]を選択します。

3 [データコレクタ (Data Collectors)]タブを選択します

- 4 [グラフィカルユーザーインターフェース (Graphical User Interface)]のラジオボタンを選択して、プラットフォームに対して適切なデータコレクタをダウンロードします。
データコレクタは OS 固有です。Windows コンピュータに関する情報を収集するには、Windows データコレクタが必要です。UNIX コンピュータに関する情報を収集するには、UNIX データコレクタが必要です。
- 5 ダウンロードが終わったら、データコレクタを起動します。
- 6 [ようこそ (Welcome)]画面の[製品ファミリー (product family)]セクションで NetBackup を選択して、[次へ (Next)]をクリックします。
- 7 [システムの選択 (System Selection)]画面で、分析するすべてのコンピュータを追加します。[参照 (Browse)]をクリックすると、分析に追加可能なコンピュータのリストを確認できます。管理者アカウントまたは root アカウントでツールを起動することをお勧めします。
- 8 すべてのシステムを選択したら、[システム名 (System names)]セクションを確認して[次へ (Next)]をクリックします。
- 9 [検証オプション (Validation Options)]画面の[検証オプション (Validation options)]下で、アップグレード後のバージョンを選択します。
- 10 [次へ (Next)]をクリックして続行します。
- 11 ユーティリティによって要求されたチェックが実行され、結果が表示されます。レポートをマイ SORT にアップロードできます。また結果を印刷したり保存できます。分析を一元管理しやすくするために、結果はマイ SORT Web サイトにアップロードすることをお勧めします。[アップロード (Upload)]をクリックして、マイ SORT のログイン情報を入力すると、データがマイ SORT にアップロードされます。
- 12 終了したら、[完了 (Finish)]をクリックしてユーティリティを閉じます。

システム固有のインストールレポートを作成する方法 (UNIX または Linux の場合)

- 1 SORT の Web サイトに移動します。
<https://sort.veritas.com/netbackup>
- 2 [インストールとアップグレード (Installation and Upgrade)]セクションで、[SORT データコレクタによるインストールとアップグレードのカスタムレポート (Installation and Upgrade custom reports by SORT data collectors)]を選択します。
- 3 [データコレクタ (Data Collector)]タブを選択します。
- 4 プラットフォームに対して適切なデータコレクタをダウンロードします。
データコレクタは OS 固有です。Windows コンピュータに関する情報を収集するには、Windows データコレクタが必要です。UNIX コンピュータに関する情報を収集するには、UNIX データコレクタが必要です。
- 5 ダウンロード済みのユーティリティを含むディレクトリに変更します。

6 実行 (Run). /sortdc

ユーティリティによって、最新バージョンのユーティリティがインストールされていることを確認するためのチェックが実行されます。さらに、ユーティリティによって、最新のデータが含まれているかどうかチェックされます。この処理の後、ユーティリティによって、このセッションのログファイルの場所がリストされます。

7 要求されたら、Enter キーを押して続行します。**8** メインメニューで[NetBackup ファミリー (NetBackup Family)]を選択します。**9** [何をしますか? (What task do you want to accomplish?)]というプロンプトが表示されたら、[インストールレポートのアップグレード (Installation/Upgrade report)]を選択します。

カンマで項目を区切ることで、複数のオプションを選択できます。

10 レポートに含めるシステムを指定します (複数可)。

指定したシステムで以前にレポートを実行していた場合は、そのレポートを再び実行するようプロンプトが表示されます。[はい (Yes)]を選択すると、レポートが再実行されます。

ユーティリティによって、セッションのログファイルの場所が再びリストされます。

ユーティリティの進捗状況が画面に表示されます。

11 インストールまたはレポートをアップグレードする製品に関するプロンプトが表示されたら、NetBackup を指定します。**12** インストールする NetBackup のバージョンに対応する数字を入力します。

ユーティリティによって、セッションのログファイルの場所が再びリストされます。

ユーティリティの進捗状況が画面に表示されます。

13 ユーティリティによって、レポートをオンラインで確認する場合には SORT Web サイトにアップロードするよう促すプロンプトが表示されます。オンラインレポートを利用すると、システム上のテキストベースのレポートよりも詳細な情報を入手できます。**14** タスクが完了したら、ユーティリティを終了できます。オプションでツールに関するフィードバックを提供できます。ベリタスはフィードバックを基にツールの改良を実施しています。

SORT のアップグレードのための推奨手順

ベリタスは現在の NetBackup ユーザーに対して、SORT の最初の導入時にリストされる 3 つの手順を実行することをお勧めします。このツールには他にも多くの機能が備わっていますが、これらの手順はすでに NetBackup を使っているユーザーにとって SORT の概要を知る上で役立ちます。さらに、これらの手順を実行することで、その他の SORT 機能に関する有用で基本的な知識が備わります。

表 A-2

手順	詳細
SORT Web ページに Veritas Account を作成します。	p.38 の「SORT ページに Veritas Account を作成する方法」を参照してください。
システム固有のアップグレードレポートを作成します。	p.39 の「システム固有のインストールレポートを作成する方法 (Windows の場合)」を参照してください。 p.40 の「システム固有のインストールレポートを作成する方法 (UNIX または Linux の場合)」を参照してください。
今後のプラットフォームと機能の予定を確認します。	p.42 の「今後のプラットフォームの変更と機能の予定を確認する方法」を参照してください。
Hotfix と EEB Release Auditor の情報を確認します。	p.42 の「Hotfix と EEB の情報を確認する方法」を参照してください。

今後のプラットフォームの変更と機能の予定を確認する方法

- 1 Web ブラウザで、次の場所に移動します:
<https://sort.veritas.com/netbackup>
- 2 [NetBackup のプラットフォームと機能の今後の予定 (NetBackup Future Platform and Feature Plans)]ウィジェットを見つけて選択します。
- 3 [情報の表示 (Display Information)]を選択します。
- 4 表示される情報を確認します
- 5 任意 - サインインによる通知の作成 - [サインインによる通知の作成 (Sign in and create notification)]をクリックします。

Hotfix と EEB の情報を確認する方法

- 1 Web ブラウザで、次の場所に移動します:
<https://sort.veritas.com/netbackup>
- 2 [NetBackup Hotfix と EEB Release Auditor (NetBackup Hot Fix and EEB Release Auditor)]ウィジェットを見つけて選択します。
- 3 Hotfix または緊急エンジニアリングバイナリ (EEB) の情報を入力します。

4 [検索 (Search)]をクリックします。

5 新しいページに、以下の列が含まれた表が表示されます。

EEB 識別子の Hotfix (Hot fix of EEB Identifier)	前の画面で入力した Hotfix または EEB 番号が表示されます。
説明 (Description)	Hotfix または EEB に関連付けられた問題の説明が表示されます。
解決済みのバージョン (Resolved in Versions)	この問題が解決された NetBackup のバージョンが示されます。

NetBackup のインストール要件

この付録では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup のインストール要件について](#)
- [NetBackup に必要なオペレーティングシステムパッチと更新](#)
- [NetBackup 8.1.2 のバイナリサイズ](#)

NetBackup のインストール要件について

今回の NetBackup のリリースには、インストールに必要な最小システム要件と手順への変更が含まれている可能性があります。これらの変更は、Windows と UNIX の両方のプラットフォームの最小システム要件に影響します。『NetBackupリリースノート』のインストール指示に関する多くの情報は、利便性を考慮して提供されています。インストールに関する詳細な説明は、『NetBackup インストールガイド』、『NetBackup アップグレードガイド』、『NetBackup スタートガイド』に記載されています。

p.23 の「[NetBackup のインストールとアップグレードの操作上の注意事項](#)」を参照してください。

- NetBackup サーバーソフトウェアをアップグレードする前に、NetBackup カタログをバックアップして、カタログバックアップが正常に終了したことを確認する必要があります。
- データベースの再構築は、多くの場合、NetBackup のメジャー、マイナー（一重ドット）、およびリリース更新（二重ドット）の各バージョンで発生します。したがって、NetBackup 8.1.2 にアップグレードする前に、NetBackup データベースのサイズ以上の空きディスク領域が利用可能になっている必要があります。つまり、デフォルトインストールに対して、/usr/opensv/db/data (UNIX) または `<install_path>%Veritas%NetBackupDB\data` (Windows) のディレクトリを含む

ファイルシステムにそれだけの空き領域が必要です。これらのいずれかのディレクトリの一部のファイルの場所を変更する場合は、その場所にファイルのサイズ以上の空き領域が必要です。代替の場所への NBDB データベースファイルの格納の詳細については、『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。

メモ: この空きディスク領域の要件は、アップグレードを始める前に、カタログバックアップを正常に終了するためのベストプラクティスを実行していることを前提としています。

- マスターサーバーとメディアサーバーでは、**NetBackup** を正常に実行するために、プロセス単位のファイル記述子の最小ソフト制限を **8000** にする必要があります。ファイル記述子の数が不十分な場合の影響については、ベリタスのサポート Web サイトの次の **TechNote** を参照してください。
<http://www.veritas.com/docs/000013512>
- **Windows 2008、Vista、2008 R2** の **UAC** が有効な環境で **NetBackup** をインストールするには、正規の管理者としてログオンする必要があります。管理者グループに割り当て済みであり、正規の管理者ではないユーザーは、**UAC** が有効な環境で **NetBackup** をインストールできません。
管理者グループのユーザーが **NetBackup** をインストールできるようにするには、**UAC** を無効化します。
- **NetBackup** のマスターサーバーとメディアサーバーは、起動時および **24** 時間ごとに **NetBackup** サーバーのバージョン情報を交換します。この交換は自動的に行われます。アップグレード後の起動時に、アップグレードされたメディアサーバーは **vmd** サービスを使って自身のバージョン情報をサーバーリストに示されているすべてのサーバーにプッシュします。
- メディアサーバーのアップグレードの実行中は、マスターサーバーのサービスを起動して利用可能な状態にしておくことをお勧めします。
- すべての圧縮ファイルは **gzip** を使用して圧縮されています。これらのファイルのインストールには **gunzip** と **gzip** が必要なので、**NetBackup** をインストールする前にコンピュータにこれらがインストールされていることを確認します。**HP-UX** を除くすべての **UNIX** プラットフォームでは、パイナリは **/bin** または **/usr/bin** に存在し、このディレクトリが **root** ユーザーの **PATH** 変数に含まれていると想定されています。**HP-UX** システムでは、**gzip** コマンドおよび **gunzip** コマンドは **/usr/contrib/bin** に存在すると想定されています。インストールスクリプトを実行すると、**PATH** 変数にこのディレクトリが追加されます。**UNIX** でインストールを正常に実行するには、これらのコマンドが存在する必要があります。

NetBackup に必要なオペレーティングシステムパッチと更新

NetBackup のサーバーおよびクライアントのインストールは、NetBackup の互換性リストにリストされるオペレーティングシステム (OS) の定義済みセットでのみサポートされます。ほとんどの OS ベンダーが、製品のパッチ、更新、およびサービスパック (SP) を提供しています。プラットフォームのテスト時には OS の最新の SP または更新レベルでテストすることが、NetBackup のクオリティエンジニアリングのベストプラクティスです。したがって、NetBackup はすべてのベンダー GA 更新 (n.1、n.2 など) または SPS (SP1、SP2 など)。ただし、既知の互換性の問題が特定の SP または更新された OS レベルに存在する場合、この情報は互換性リストで特定されます。このような互換性の問題が見られない場合、ベリタス社は、サーバーとクライアントに最新の OS 更新をインストールしてから NetBackup をインストールまたはアップグレードすることをお勧めします。

互換性リストには、最新のメジャーリリースラインでの最小の NetBackup バージョンをサポートするために必要な最小の OS レベルに関する情報が含まれます。場合によっては、NetBackup の新しいリリースが特定のベンダーによる OS 更新またはパッチを必要とすることがあります。表 B-1 は、NetBackup 8.1.2 で必要な OS 更新およびパッチを示しています。ただし、この情報はリリース間で変わる場合があります。NetBackup 8.1.2 およびその他の NetBackup リリースに関する最新の必要な OS パッチ情報は、Veritas Services and Operational Readiness Tools (SORT) Web サイトおよび NetBackup 互換性リストで確認できます。

p.53 の「[NetBackup の互換性リストと情報について](#)」を参照してください。

p.36 の「[Veritas Services and Operations Readiness Tools について](#)」を参照してください。

メモ: OS ベンダーは、表 B-1 にリストされているパッチよりも優先されるまたはそれに置き換わるより最新の更新またはパッチをリリースしている可能性があります。ここおよび SORT にリストされている OS パッチは、NetBackup のインストールと実行に必要な最小のパッチレベルであると考えする必要があります。表 B-1 にリストされているものに優先されるまたはそれらに置き換わる OS 更新、パッチ、またはパッチバンドルは、特に指定されていないかぎりサポートされます。ベリタス社は、個別の OS ベンダーのサポート Web サイトを参照して最新のパッチ情報を入手することをお勧めします。

メモ: 表 B-1 に記載されている NetBackup クライアント向けの必須パッチも、クライアントが適切に動作するためにマスターサーバーとメディアサーバーにインストールする必要があります。

表 B-1 NetBackup 8.1.2 に必要なオペレーティングシステムパッチと更新

オペレーティングシステムの種類とバージョン	NetBackup の役割	パッチ	注意事項
AIX 6.1	クライアントのみ	AIX ランタイムライブラリ 9.0.0.3 以降	ランタイムライブラリは 9.0.0.3 以降である必要があります。バージョン 9.0.0.3 に変更した後に再起動する必要があります場合があります。
Beijing Linx Software Corp Linx OS	マスター、メディア、クライアント	カーネル 2.6.32.26 以降	
CentOS 6.x	マスター、メディア、クライアント	カーネル 2.6.32-608.el6 以降	
CentOS 7.x	マスター、メディア、クライアント	カーネル 3.10.0-241.el7 以降	
Debian 8	マスター、メディア、クライアント	カーネル 3.16.7-1 以降	詳細情報を参照できます。 Debian 8 リリースノート
HP-UX	クライアントのみ	COMPLIBS.LIBM-PS32	HP-UX プラットフォーム上に AT をインストールする場合、このパッチが必要になります。
HP-UX IA-64	クライアントのみ	Networking.NET-RUN: /usr/lib/libip6.sl	
	クライアントのみ	Networking.NET-RUN-64: /usr/lib/pa20_64/libip6.1	
	クライアントのみ	Networking.NET-RUN-64: /usr/lib/pa20_64/libip6.sl	
	クライアントのみ	Networking.NET2-RUN: /usr/lib/hpux32/libip6.so	
	クライアントのみ	Networking.NET2-RUN: /usr/lib/hpux32/libip6.so.1	
	クライアントのみ	Networking.NET2-RUN: /usr/lib/hpux64/libip6.so	
	クライアントのみ	Networking.NET2-RUN: /usr/lib/hpux64/libip6.so.1	
	クライアントのみ	Networking.NET2-RUN: /usr/lib/libip6.1	

オペレーティングシステムの種類とバージョン	NetBackup の役割	パッチ	注意事項
Oracle Linux 6	マスター、メディア、クライアント	カーネル 2.6.32-504.14.1 以降	詳細情報を参照できます。 カーネルのセキュリティとバグ修正に関する更新
Oracle Linux 7	マスター、メディア、クライアント	カーネル 3.10.0-229.7.1 以降	詳細情報を参照できます。 カーネルのセキュリティとバグ修正に関する更新
Red Hat Enterprise Linux 6	マスター、メディア、クライアント	カーネル 2.6.32-504.16.2.el6 以降	詳細情報を参照できます。 Red Hat テクニカルノート RHSA-2015:0864 - セキュリティアドバイザリ
Red Hat Enterprise Linux 7	マスター、メディア、クライアント	カーネル 3.10.0-229.7.2.el7 以降	詳細情報を参照できます。 Red Hat テクニカルノート RHSA-2015:1137 - セキュリティアドバイザリ
SUSE Linux 11	マスター、メディア、クライアント	SUSE Linux Enterprise 11 Service Pack 3 以降	詳細情報を参照できます。 Linux カーネルのセキュリティ更新: SUSE-SU-2014:1695-1
SUSE Linux 12	マスター、メディア、クライアント	カーネル 3.12.31 以降	詳細情報を参照できます。 Linux カーネルのセキュリティ更新: SUSE-SU-2015:0068-1
Windows Vista x86-64	クライアント	KB936357	Microsoft マイクロコード信頼性更新 (推奨)
	クライアント	KB952696	暗号化されたファイルをバックアップするために必要な更新を含んでいます。
Windows Server 2008 x86-64	クライアント	KB952696	暗号化されたファイルをバックアップするために必要な更新を含んでいます。
Windows Server 2008 x86-64 (SP2)	マスター、メディア、クライアント	KB979612	TCP ループバック遅延と UDP 遅延を改善するホットフィックス。

オペレーティングシステムの種類とバージョン	NetBackup の役割	パッチ	注意事項
Windows Server 2008 x86-64 R2	マスター、メディア、クライアント	KB2265716	コンピュータがランダムに応答停止する場合のホットフィックス。 このパッチが Windows Server 2008 R2 SP1 に含まれていることに注意してください。
	マスター、メディア、クライアント	KB982383	ディスク I/O 負荷が大きい状況で I/O パフォーマンスが低下する場合のホットフィックス。 このパッチが Windows Server 2008 R2 SP1 に含まれていることに注意してください。
	マスター、メディア、クライアント	KB983544	レジストリハイブファイルの「修正日時」ファイル属性の更新。 このパッチが Windows Server 2008 R2 SP1 に含まれていることに注意してください。
	マスター、メディア、クライアント	KB979612	TCP ループバック遅延と UDP 遅延を改善するホットフィックス。 このパッチが Windows Server 2008 R2 SP1 に含まれていることに注意してください。

ベリタスでは、Windows オペレーティングシステムで NetBackup を実行する場合は、次の更新をお勧めします。

- Microsoft storport の Hotfix。この Hotfix は、Windows x86 および x64 の SP1 と SP2 の両方に適用されます (必須)。<http://support.microsoft.com/?id=932755>
- Symantec AntiVirus。最新版と最新アップデートへの更新 (必須)。
- SYMEVENT ドライバの更新 (必須)。最新バージョンのドライバに更新してください。

NetBackup 8.1.2 のバイナリサイズ

表 B-2 には、NetBackup 8.1.2 マスターサーバー、メディアサーバー、およびサポートされているさまざまなオペレーティングシステム対応のクライアントソフトウェアに対する概算バイナリサイズが示されています。これらのバイナリサイズは、初回インストール後に製品が占有するディスク容量を示します。

メモ: 表 B-2 および 表 B-3 は、サポートされているオペレーティングシステムのためのリストになっています。NetBackup が現在サポートしている最新のオペレーティングシステムのバージョンについては、Symantec Operations Readiness Tools (SORT) Web サイトの『インストールとアップグレードのチェックリスト』か『オペレーティングシステム互換性リスト』(<http://www.netbackup.com/compatibility>) を参照してください。

p.36 の「Veritas Services and Operations Readiness Tools について」を参照してください。

表 B-2 互換性のあるプラットフォームの NetBackup のバイナリサイズ

OS	CPU アーキテクチャ	32 ビットのクライアント	64 ビットのクライアント	64 ビットのサーバー	注意事項
AIX	POWER		1737 MB	サポート終了	
Canonical Ubuntu	x86-64		1872 MB		
CentOS	x86-64		1170 MB	7299 MB	メディアサーバーまたはクライアントとの互換性のみ。
Debian GNU/Linux	x86-64		1872 MB		
HP-UX	IA-64		2263 MB	サポート終了	
OpenVMS	IA-64		128 MB		表示されているサイズは、NetBackup 7.5 バイナリ用です。OpenVMS の NetBackup 8.1.2 バイナリは提供されません。
Oracle Linux	x86-64		1171 MB	7300 MB	
Red Hat Enterprise Linux Server	x86-64		1171 MB	7300 MB	
Red Hat Enterprise Linux Server	z/Architecture		916 MB	4046 MB	メディアサーバーまたはクライアントとの互換性のみ。
Solaris	SPARC		1263 MB	6749 MB	
Solaris	x86-64		1271 MB	6892 MB	

OS	CPU アーキテクチャ	32 ビットのクライアント	64 ビットのクライアント	64 ビットのサーバー	注意事項
SUSE Linux Enterprise Server	x86-64		1117 MB	7079 MB	
SUSE Linux Enterprise Server	z/Architecture		928 MB	4053 MB	メディアサーバーまたはクライアントとの互換性のみ。
Windows	x86-64		454.2 MB	2391.6 MB	互換性のあるすべての Windows x64 プラットフォームが含まれます。

次の領域の要件は **Windows** に **NetBackup** をインストールする場合にも適用される場合があります。

- **Windows** システム上のデフォルトではない場所に **NetBackup** をインストールする場合、ソフトウェアの一部はアプリケーションフォルダのプライマリの場所に関係なく、システムドライブにインストールされます。システムドライブ上で必要な領域は通常、[表 B-2](#) にリストされている合計バイナリサイズの **40~50%** になります。
- **NetBackup** サーバーを **Windows** クラスタにインストールする場合、ソフトウェアの一部はクラスタの共有ディスクにインストールされます。クラスタの共有ディスク上で必要な領域は、[表 B-2](#) にリストされているバイナリサイズに加えて必要なものです。必要な追加領域は合計バイナリサイズの **15~20%** です。

NetBackup OpsCenter

[表 B-3](#) には、**NetBackup OpsCenter 8.1.2** と互換性がある各種のオペレーティングシステム用の **OpsCenter Agent**、サーバー、および **ViewBuilder** のおよそのバイナリサイズが含まれます。

表 B-3 互換性のあるプラットフォームの **NetBackup OpsCenter** のバイナリサイズ

OS	CPU アーキテクチャ	エージェント	サーバー	ViewBuilder
Oracle Linux	x86-64		717 MB	
Red Hat Enterprise Linux Server	x86-64		737 MB	
SUSE Linux Enterprise Server	x86-64		832 MB	
Windows Server	x86-64	255 MB	698 MB	223 MB

NetBackup プラグイン

NetBackup vCenter Web Client プラグインと NetBackup System Center Virtual Machine Manager アドイン用ディスク容量要件は、『NetBackup Plug-in for VMware vSphere Web Client ガイド』および『Microsoft SCVMM コンソール用 NetBackup アドインガイド』にそれぞれ記載されています。



NetBackup の互換性の要件

この付録では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup の互換性リストと情報について](#)
- [NetBackup の End-of-Life のお知らせについて](#)

NetBackup の互換性リストと情報について

『NetBackup リリースノート』のドキュメントには、NetBackup のバージョン間で実施された大量の互換性の変更に関する記述が含まれています。ただし、プラットフォーム、周辺機器、ドライブ、ライブラリの最新の互換性情報は、NetBackup の Veritas Operations Readiness Tools (SORT) Web サイトにあります。

p.36 の「[Veritas Services and Operations Readiness Tools について](#)」を参照してください。

NetBackup では、SORT によって、インストールとアップグレードのチェックリストのレポートと、既存の複数の環境にわたりホストの設定を収集、分析、報告する機能が提供されます。さらに、ご使用の環境にインストールした **Hofix** や **EEB** がどのリリースに含まれているかを特定できます。このデータを使って、システムで特定のリリースのインストールまたはアップグレードを行う準備ができていないか評価します。

NetBackup 互換性リスト

SORT に加えて、Veritas はお客様がすぐに NetBackup の最新の互換性情報を参照できるようさまざまな互換性リストを提供しています。これらの互換性リストは次の場所にある Veritas のサポート Web サイトで見つけることができます。

<http://www.netbackup.com/compatibility>

メモ: 相互に互換性のある NetBackup のバージョンについての情報が必要な場合は、互換性リストから[NetBackup のバージョン間の互換性 (Compatibility Between NetBackup Versions)]を選択してください。

NetBackup の End-of-Life のお知らせについて

ベリタス社は多種多様なシステム、プラットフォーム、オペレーティングシステム、CPU アーキテクチャ、データベース、アプリケーション、ハードウェアに対し、可能なかぎり優れたデータ保護を提供することに取り組んでおります。ベリタス社は、今後も NetBackup システムのサポートを見直してまいります。これにより、製品の既存のバージョンの保守と、以下についての新しいサポートの導入とを適切なバランスで行っていくことができます。

- General Availability リリース
- 新しいソフトウェアおよびハードウェアの最新バージョン
- 新しい NetBackup の機能

ベリタス社が新しい機能とシステムのサポートを絶え間なく追加していく一方で、NetBackup のサポートの中には改善、置換、削除が必要なものもあります。これらのサポート処理は、古い、またはあまり使われない機能に影響することがあります。影響を受ける機能には、ソフトウェア、OS、データベース、アプリケーション、ハードウェア、サードパーティ製品との統合に関するサポートが含まれることがあります。また、場合によっては製造元によるサポートが終了しているか、サポート期間終了間際の製品が含まれる場合もあります。

ベリタス社は NetBackup のさまざまな機能のサポートに変更があった場合でもお客様に支障のないように詳細な通知を提供してサポートいたします。ベリタス社は、NetBackup の次のリリースでサポートされない古い製品機能、システム、サードパーティ製のソフトウェア製品をリスト化していく予定です。可能であれば、ベリタスによって、メジャーリリースの前に最低 6 カ月で可能なかぎり早くこれらのサポートリストを利用できるようにします。

SORT の利用

今後のプラットフォームおよび End-of-Life (EOL) 情報を含む機能サポートの詳細な通知は、Veritas Services and Operations Readiness Tools (SORT) for NetBackup のホームページにあるウィジェットから入手できます。SORT for NetBackup のホームページにある[NetBackup のプラットフォームと機能の今後の予定 (NetBackup Future Platform and Feature Plans)]ウィジェットは、次の場所から直接見つけることができます。

<https://sort.veritas.com/nbufutureplans>

NetBackup の End-of-Support-Life (EOSL) 情報は、次の場所から入手することもできます。

https://sort.veritas.com/eosl/show_matrix

p.36 の「[Veritas Services and Operations Readiness Tools について](#)」を参照してください。

プラットフォーム互換性の変更について

NetBackup 8.1.2 リリースには、さまざまなシステムのサポートにおける変更も実装されています。SORT の利用に加え、『NetBackup リリースノート』ドキュメントおよび NetBackup の互換性リストを確認してから、NetBackup ソフトウェアをインストールまたはアップグレードする必要があります。

p.10 の「[NetBackup の新しい拡張と変更について](#)」を参照してください。

<http://www.netbackup.com/compatibility>

NetBackup のクラウドコネクタのサポート終了

NetBackup 8.1.2 以降のリリースでは、次のクラウドコネクタに対するサポートが終了します。

- AT&T (Atmos API 互換コネクタ)
- Rackspace (Swift API 互換コネクタ)

NetBackup 8.1.2 へのアップグレード後、AT&T または Rackspace のクラウドストレージサーバーへのデータのバックアップまたはリストア中にエラーが発生する可能性があります。

update_clients スクリプトの廃止予定

update_clients スクリプトは、次期 NetBackup リリースで廃止される予定です。このスクリプトを使用した NetBackup 8.1.2 クライアントへのアップグレードは引き続き可能です。ただしこのスクリプトは、NetBackup 8.1.2 より後のリリースへのアップグレードには使用できません。NetBackup 8.1.2 より後のリリースに対してこの機能を実行するには、VxUpdate を使用してください。

他のNetBackup マニュアル および関連マニュアル

この付録では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup の関連マニュアルについて](#)
- [NetBackup リリースノートについて](#)
- [NetBackup 管理者ガイドについて](#)
- [NetBackup のインストールマニュアルについて](#)
- [NetBackup の構成マニュアルについて](#)
- [NetBackup のトラブルシューティングマニュアルについて](#)
- [その他の NetBackup のマニュアルについて](#)

NetBackup の関連マニュアルについて

メモ: UNIX に関するすべての内容は、特に指定しないかぎり、Linux プラットフォームにも適用されます。

ベリタスは、NetBackup ソフトウェアに関連するさまざまなガイドと技術マニュアルをリリースしています。これらのドキュメントはリリース形式にしたがって NetBackup の新しいバージョン向けに公開されています。

特に指定のないかぎり、NetBackup マニュアルは次の場所から PDF 形式でダウンロードできます。

<http://www.veritas.com/docs/000003214>

メモ: ベリタスは、PDF リーダーソフトウェアのインストールおよび使用に関する責任を負いません。

NetBackup リリースノートについて

NetBackup ソフトウェアには、次のリリースノートドキュメントが公開されています。

- **NetBackup リリースノート**
このマニュアルには、UNIX と Windows のプラットフォーム両方に対応する NetBackup の今回のリリースに関するさまざまな情報が含まれています。この情報には、新しい機能、プラットフォームの互換性の変更、パッチの必要条件、マニュアルの修正、既知の問題が含まれていますが、これらに限定されるものではありません。NetBackup のマニュアルやオンラインヘルプの他の場所で見つからない可能性がある操作上の注意事項も含まれています。
- **NetBackup Emergency Engineering Binary ガイド**
次のドキュメントには、すでに特定、解決され、NetBackup ユーザーが Emergency Engineering Binary (EEB) の形式で利用可能になった既知の問題の一部が示されています。ここには、指定のリリースで修正されているが、EEB では修正されなかった可能性のある問題の一部が示されています。

NetBackup 管理者ガイドについて

次の管理者ガイドが、NetBackup ソフトウェア用として公開されています。

- **NetBackup 管理者ガイド Vol. 1**
このマニュアルでは、UNIX または Windows サーバー上で NetBackup を構成して管理する方法について説明します。このマニュアルでは、NetBackup インターフェースについて、ホスト、ストレージデバイスとメディア、ストレージライフサイクルポリシー (SLP)、バックアップ、レプリケーション、監視と報告を構成する方法について説明します。
- **NetBackup 管理者ガイド Vol. 2**
このマニュアルでは、NetBackup のための追加の構成とインターフェースオプションについて説明します。このマニュアルには、NetBackup ライセンスについての参照項目と情報も含まれています。

NetBackup オプションの管理について

NetBackup オプションの次の管理者ガイドが、NetBackup ソフトウェア用として公開されています。

- **NetBackupAdd-in for Microsoft SCVMM Console ガイド**

このガイドでは、**NetBackup Add-in for SCVMM (System Center Virtual Machine Manager)** をインストールしてトラブルシューティングする方法や、**NetBackup** バックアップイメージから仮想マシンをリストアする場合にこのアドインを使う方法について説明します。

- **NetBackup AdvancedDisk ストレージソリューションガイド**
このガイドでは、**NetBackup AdvancedDisk** ストレージオプションを構成、管理、トラブルシューティングする方法について説明します。**NetBackup** に公開されているディスクストレージをバックアップ用のファイルシステムとして使う方法について説明します。
- **NetBackup Bare Metal Restore 管理者ガイド**
このガイドでは、サーバーのリカバリ処理を自動化して簡素化するために **NetBackup BMR (Bare Metal Restore)** プートサーバーとクライアントのインストール、構成、管理を行う方法について説明します。
- **NetBackup クラウド管理者ガイド**
このガイドでは、**Veritas OpenStorage** を使ってクラウドの **STaaS (Storage as a Service)** ベンダーからデータのバックアップとリストアを行うために **NetBackup** を構成し、管理する方法について説明します。
- **NetBackup DataStore SDK プログラマガイド XBSA**
このガイドでは、**XBSA API** を設定して **NetBackup** と通信するアプリケーションのバックアップを作成したり、アプリケーションをアーカイブしたりするために使う方法について説明します。
- **NetBackup 重複排除ガイド**
このガイドでは、**NetBackup** メディアサーバー重複排除オプションを使って **NetBackup** 環境のデータ重複排除を計画、構成、移行、監視、管理する方法について説明します。
- **NetBackup for AHV (Acropolis Hypervisor) 管理者ガイド**
このマニュアルでは、**NetBackup** で **AHV (Acropolis Hypervisor)** を保護する方法について説明します。
- **NetBackup for Hadoop 管理者ガイド**
このガイドは、**NetBackup** を使用して **Hadoop** のデータを保護する方法、および **Hadoop** プラグインを配備して **NetBackup for Hadoop** を構成する方法について説明します。
- **NetBackup for Hyper-V 管理者ガイド**
このガイドでは、**Windows Hyper-V** サーバーで動作する仮想マシンのスナップショットベースのバックアップポリシーを構成して管理する方法について説明します。
- 『**NetBackup for NDMP 管理者ガイド UNIX、Windows および Linux**』
このガイドでは、**NAS (Network Attached Storage)** システムのバックアップとリストアを開始し、制御するために **NetBackup for NDMP (Network Data Management Protocol)** をインストール、構成、使用する方法について説明します。

- **NetBackup for VMware 管理者ガイド**
このガイドでは、VMware ESX サーバーで動作する VMware 仮想マシンのオフホストバックアップのような機能を実行するために NetBackup を構成する方法について説明します。
- **NetBackup ログリファレンスガイド**
このガイドでは、NetBackup 管理コンソールからレポートを実行する方法やログがシステムどこに保存されているかなど、直面する問題をトラブルシューティングする場合に役立つ各種の NetBackup のログやレポートについて説明します。
- **ディスクの NetBackup OpenStorage のソリューションガイド**
このガイドでは、NetBackup でバックアップ用にインテリジェントディスクアプライアンスを構成し、使用方法について説明します。
- **NetBackup OpsCenter 管理者ガイド**
このマニュアルでは、NetBackup OpsCenter ユーザーインターフェースを使って NetBackup とそのエージェントや製品オプションのレポート、監視、警告を行う方法について説明します。
- **NetBackup OpsCenter レポートガイド**
このガイドでは、NetBackup OpsCenter を使って包括的なビジネスレベルのレポートを生成して使用し、データバックアップ操作やアーカイブ操作の有効性をトラッキングする方法について説明します。
- **NetBackup OpsCenter パフォーマンスチューニングガイド**
このパフォーマンスと調整のマニュアルは、OpsCenter のパフォーマンスを分析、評価、調整する管理者を対象にしています。このマニュアルは、OpsCenter が最大のパフォーマンスを実現するように調整する方法、バックアップ環境に応じて OpsCenter に採用するシステム構成、向上した OpsCenter のパフォーマンスにかなうベストプラクティスについてアドバイスすることを意図しています。
- **NetBackup Plug-in for VMware vSphere Web Client**
このガイドでは、NetBackup 用の vSphere Web Client プラグインをインストールしてトラブルシューティングする方法について説明します。vSphere Web Client プラグインを使うと、vCenter サーバーが管理する仮想マシンのバックアップの監視、バックアップからの仮想マシンのリカバリ、VM のバックアップ状態や関連メッセージの監視が可能です。
- 『**NetBackup Replication Director ソリューションガイド**』
このガイドでは、NetBackup OpenStorage の管理対象スナップショットとスナップショットレプリケーションの実装方法について説明します。スナップショットはパートナー企業のストレージシステムに格納されます。
- **NetBackup SAN クライアントおよびファイバートランスポートガイド**
このガイドでは、ファイバートランスポート方式を使ってクライアントバックアップを高速化するために NetBackup SAN クライアントの機能を設定、構成、管理する方法について説明します。

- **NetBackup Snapshot Client 管理者ガイド**
このガイドでは、VMware、Hyper-V、Replication Director との統合などのさまざまなスナップショットベース機能を有効にするために NetBackup Snapshot Client をインストール、構成、使用する方法について説明します。
- **NetBackup Vault 管理者ガイド**
このガイドでは、オフサイトメディアストレージのためにバックアップイメージの選択と複製を自動化するように NetBackup Vault をインストール、構成、使用する方法について説明します。
- **NetBackup Vault 操作ガイド**
このガイドでは、NetBackup Vault を使って 2 つの主要な作業分野 (管理と操作) の一部としてメディアを Vault 処理する方法について説明します。説明する作業には、オフサイトにテープを送付し、サイトでテープを受け取り、オフサイトメディアと Vault ジョブでレポートを実行する手順が含まれます。
- **WebSocket サービス (NBWSS) リファレンスガイド**
このマニュアルでは、クラウドアプリケーションとの通信に NetBackup WebSocket サービス (NBWSS) を使用する方法と NBWSS 用に WebSocket エンドポイントを設定する方法について説明します。

NetBackup データベースエージェントの管理について

NetBackup データベースエージェントの次の管理者ガイドが、NetBackup ソフトウェア用として公開されています。

- **NetBackup for DB2 管理者ガイド**
このガイドでは、NetBackup for DB2 データベースエージェントをインストール、構成、使用する方法について説明します。
- **NetBackup for Enterprise Vault Agent 管理者ガイド**
このガイドでは、Veritas Enterprise Vault の構成情報とアーカイブデータを保護するために NetBackup for Enterprise Vault Agent をインストール、構成、使用する方法について説明します。
- **NetBackup for Informix 管理者ガイド**
このガイドでは、UNIX 版 NetBackup クライアント上で Informix データベースのバックアップとリストアを行うために NetBackup for Informix エージェントをインストール、構成、使用する方法について説明します。
- **NetBackup for Lotus Notes 管理者ガイド**
このガイドでは、NetBackup クライアントで Lotus Notes データベースとトランザクションログのバックアップとリストアを行うために NetBackup for Lotus Notes エージェントを構成し、使用する方法について説明します。
- **NetBackup for MariaDB 管理者ガイド**

このマニュアルでは、NetBackup for MariaDB エージェントをインストール、構成、管理する方法について説明します。

- 『NetBackup for Microsoft Exchange Server 管理者ガイド』
このガイドでは、Microsoft Exchange Server のオンラインバックアップとリストアを行うために NetBackup for Exchange Server エージェントを構成し、使用方法について説明します。
- 『NetBackup for Microsoft SharePoint Server 管理者ガイド』
このガイドでは、Windows 版 NetBackup クライアント上の SharePoint データベースのバックアップとリストアを行うために NetBackup for SharePoint Server エージェントを構成し、使用方法について説明します。
- NetBackup for Microsoft SQL Server 管理者ガイド
このガイドでは、Microsoft SQL Server データベースとトランザクションログのバックアップとリストアを行うために NetBackup for Microsoft SQL Server エージェントを構成し、使用方法について説明します。
- NetBackup for Oracle 管理者ガイド
このガイドでは、NetBackup クライアント上の Oracle データベースのバックアップとリストアを行うために NetBackup for Oracle エージェントを構成し、使用方法について説明します。
- NetBackup for PostgreSQL 管理者ガイド
このマニュアルでは、NetBackup for PostgreSQL エージェントをインストール、構成、管理する方法について説明します。
- NetBackup for SAP 管理者ガイド
このガイドでは、NetBackup クライアント上の SAP データベースと SAP HANA データベースのバックアップとリストアを行うために NetBackup for SAP エージェントを構成し、使用方法について説明します。
- NetBackup for SQLite 管理者ガイド
このマニュアルでは、NetBackup for SQLite エージェントをインストール、構成、管理する方法について説明します。
- NetBackup for Sybase 管理者ガイド
このガイドでは、NetBackup クライアント上の Sybase データベースのバックアップとリストアを行うために NetBackup for Sybase エージェントを構成し、使用方法について説明します。

NetBackup のインストールマニュアルについて

次のインストールマニュアルが、NetBackup ソフトウェア用として公開されています。

- NetBackup インストールガイド

このマニュアルでは、UNIX や Windows のプラットフォームに NetBackup サーバー、クライアント、管理ソフトウェアをインストールする方法について説明します。

- **NetBackup クイックスタートアップグレードガイド**
このガイドの目的は、『NetBackup アップグレードガイド』を経験豊富なユーザーに向けて補足することです。このガイドに記載されている情報は、ユーザーがアップグレードの前提条件をすでに読み、理解していることを前提としています。このガイドの使用は、初心者または経験の浅い NetBackup 管理者には推奨されません。経験の浅い管理者は、『NetBackup アップグレードガイド』を使用してください。
- **NetBackup アップグレードガイド**
このマニュアルは、NetBackup ソフトウェアのアップグレードの計画と実施を支援します。このマニュアルは最新情報を提供するために定期的に更新されます。

NetBackup の構成マニュアルについて

NetBackup オプションの次の構成ガイドが、NetBackup ソフトウェア用として公開されています。

- **NetBackup デバイス構成ガイド**
このガイドでは、NetBackup サーバー用に使うストレージデバイスホストのオペレーティングシステムを設定し、構成する方法について説明します。

NetBackup のトラブルシューティングマニュアルについて

次のトラブルシューティングガイドが、NetBackup ソフトウェア用として公開されています。

- **NetBackup トラブルシューティングガイド**
このガイドは、一般的なトラブルシューティングに関する情報を提供し、NetBackup 製品と機能のために使えるさまざまなトラブルシューティング方法を説明します。
- **NetBackup 状態コードリファレンスガイド**
このガイドには、NetBackup、Media Manager、デバイス構成、デバイス管理、ロボットエラーの状態コードの完全なリストが記載されています。各状態コードのリストには説明と推奨処置が含まれています。

その他の NetBackup のマニュアルについて

次のマニュアルが、NetBackup ソフトウェア用として公開されています。

- **NetBackup コマンドリファレンスガイド**
このガイドには、NetBackup のマニュアルページのコマンドすべてを含む、UNIX システムと Windows システムで動作するコマンドについての詳細情報が含まれます。

- **NetBackup マスターサーバーのクラスタ化管理者ガイド**
 このガイドでは、クラスタで **NetBackup** マスターサーバーをインストールして構成する方法について説明します。
- **NetBackup 高可用性の環境管理者ガイド**
 このガイドでは高可用性環境で **NetBackup** を使う各種方式を説明し、単一障害点から **NetBackup** を保護するためのガイドラインを示します。
- **NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド**
 このガイドでは、アクセス制御、強化された認可と認証、暗号化を使って **NetBackup** を保全する方法について説明します。
- **NetBackup ネットワークポートリファレンスガイド**
 このガイドでは、マスターサーバーとメディアサーバーのポート、クライアントポート、デフォルトポート、その他の **NetBackup** が使うポートを含む **NetBackup** ネットワークポートの参照情報を示します。
- **NetBackup スタートガイド**
 このガイドでは、**NetBackup** のこのリリースと関連しているインストール前の情報についての概要を提供します。ガイドにはまた、**NetBackup** メディアキット、**NetBackup** 電子ソフトウェア配布 (ESD) イメージ、**NetBackup** ライセンスキーの要件の説明も含まれます。
- **NetBackup バックアップ、アーカイブおよびリストアスタートガイド**
 このマニュアルでは、**NetBackup** の新規ユーザーを対象に、基本的なバックアップおよびリストアの手順について説明します。これらの手順には、コンピュータ上に存在するファイル、フォルダまたはディレクトリ、ボリュームまたはパーティションをバックアップ、アーカイブ、リストアする方法も含まれます。
- **NetBackup サードパーティの法的通知**
 この文書には、**Veritas NetBackup** 製品と **OpsCenter** 製品に関するサードパーティプログラム (適用される場合) の所有権通知とサードパーティプログラムのライセンスが含まれます。